

*授業実施方法の変更について

【重要】

コロナウイルス感染防止のため、Zoom (Web 会議システム) 等を利用したオンライン授業や通常とは異なる方法で授業を実施する科目があります。

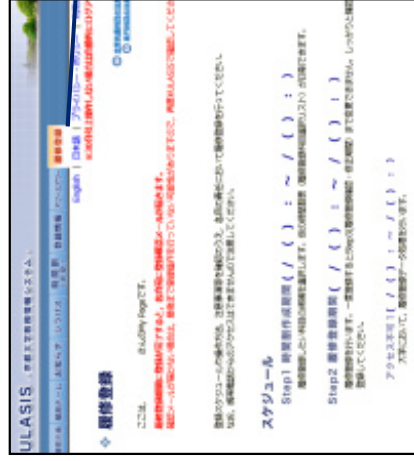
授業の実施方法に変更がある場合は、KULASISの「授業資料」でお知らせします。

必ず、授業前日の17時までにKULASISの履修登録ページから履修候補科目を登録し、授業前日の17時以降に改めて各科目の「授業資料」を確認してください。

* 時間割に履修予定の科目を登録すると授業資料 (ZoomのURL等) を確認することができます。

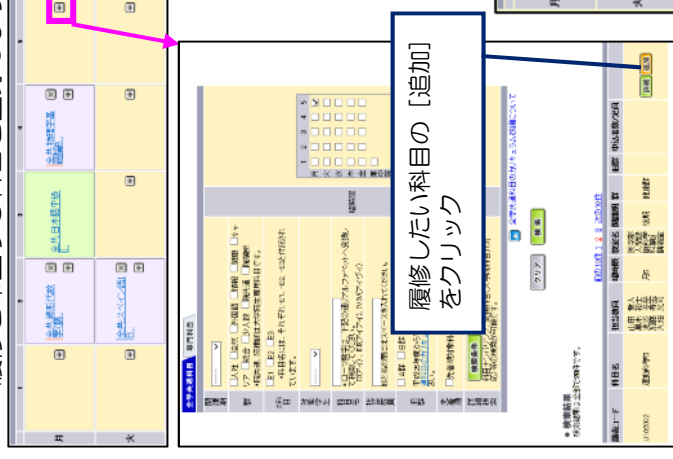
* 「授業資料」の掲載がない科目については、原則シラバスに記載の教室で授業を行います。

【科目の登録・授業資料確認方法】



KULASISの「履修登録」ページから時間制作成を行います。

- 候補科目の追加
履修を希望する科目を登録します。



追加したい科目の曜時間の「+」をクリック

[専門科目 (工学研究科科目)] または [全学共通科目] を選択し、科目を検索してください。

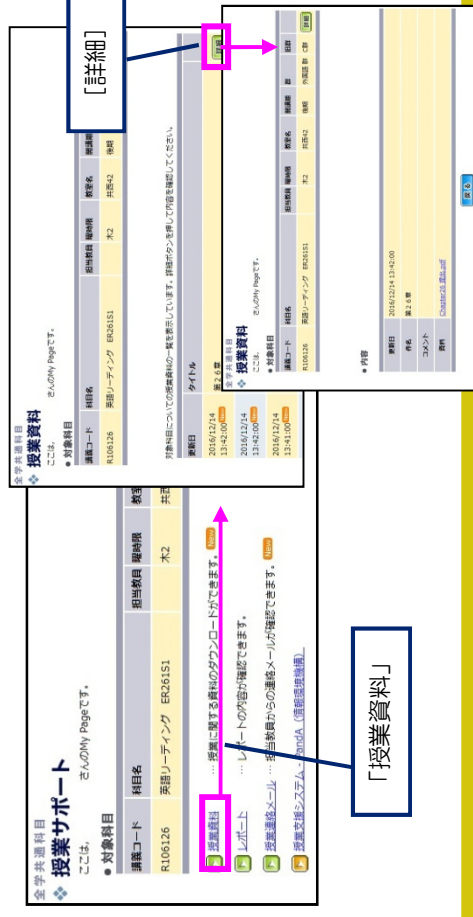
該当する曜時間に、候補科目が追加されました。1つの曜時間に最大3科目まで候補科目を選択することができます。

履修したい科目の「追加」をクリック



* 科目をクリックすると、授業サポートページ (授業資料) へリンクします。

- 授業資料 (ZoomのURL等) の確認
ZoomのURLや授業実施方法の変更は「授業資料」に掲載されますので、**授業前日の17時以降に必ず確認してください。**



「授業資料」

1. 配付物

◆配付物（共通）

1. KULASISによる履修登録の流れ
2. 学生証について／通学定期券購入方法について
3. 情報セキュリティ対策のお願い
4. 研究公正と倫理
5. 責任ある学術研究活動のために
6. 駐輪場マップ
7. 桂保健室について

8. 工学研究科大学院学修要覧
9. Campus Life Information
10. 「人権」を考えるために
11. 京都大学におけるハラスメントの防止と対応について
12. 附属図書館利用案内（「住所等届出用紙」は、必ず附属図書館に提出すること）
13. 地震対応マニュアル
14. 安否確認システムリーフレット
15. 工学基盤教育センターからのご案内
16. その他
 - ◎【女子学生のみ】女子学生向け案内
 - ◎【留学生のみ】上記配布物の英文版（あるものだけ）
 - ◎【他大学からの入学者のみ】安全の手引きこの他にも、各種ちらし・冊子を同封しています。

※その他、各専攻の資料を同封しています。

2. 履修について（詳細は別紙で確認すること）

押印済みの用紙の提出期限：4月24日（金）

提出場所：Aクラスター事務区教務掛 レポートボックス

※履修登録科目がない場合は、提出の必要はありません。ただし、履修登録があるのにリストを提出しない場合は、単位を認定しない場合がありますので、十分注意してください。

3. 工学部・他学部・他研究科科目の聴講について

【前期・通年科目のみ、KULASIS で登録できないもの】

提出期限：4月10日（金）

配布・提出場所：Aクラスター教務掛窓口（レポートボックスには入れないこと）

* 全学共通科目、教育学部科目は提出不要。

4. 学生一般定期健康診断

※現在の社会情勢に鑑み、今年度は通常健康診断は行わず、WEB問診（学内ネットワークからのアクセス）のみ行うこととなりました。

【WEB問診入力期間】3月13日（金）～3月30日（月）17:00

※検尿、血圧測定、身長・体重測定、視力検査（任意）、一般問診、医師問診は実施しません。

※胸部 X 線撮影は新入生全員が対象となるので、後日、実施可能となった場合には案内する予定です。

※WEB問診確認の結果、直接の医師問診、検査等を必要とする学生については、後日連絡しますので、当該学生は速やかに保険診療所（吉田）で受診してください。

◆今回の令和2年4月の学生一般定期健康診断に限り、証明書自動発行機（無料）で「定期健康診断結果」として発行してもWEB問診の登録事項以外は記載されませんのでご注意ください。

◆WEB問診以外の学生健康診断の通常項目の検査を必要とする学生については、7月以降、期間外健康診断として、Aクラスター教務掛を通じて事前予約のうえ保険診療所で受験してください。

※詳細は「京都大学環境安全保健機構 健康管理部門 健康診断ウェブサイト」を参照願います。

<https://u.kyoto-u.jp/kenshin>



5. 掲示・ホームページ ※事務からの通知は下記に掲載又は掲示するので、必ず毎日確認のこと。

・KULASIS（京都大学教務掛情報システム）

休講、レポート情報、授業連絡、教務・厚生情報はこちらに掲載するので、随時チェックすること。

登録情報の連絡先（メールアドレス・携帯電話番号）はもれなく入力し、変更があった場合は修正すること。住所変更があった場合も各自 KULASIS で変更してください。

・電気系・化学系ホームページ（学内専用）：

<http://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/students/g-procedures/denkikagaku>

京大工学部・工学研究科 HP TOP→在学生・卒業生→各種手続き（大学院生・修了生）→電気系・化学系向け情報

・掲示板：

化学系 桂 A2 棟 3 階 308 講義室横

電気系 桂 A1 棟地下 1 階—講義関係通知、定期試験、留学生向案内等

桂 A1 棟 3 階【入口案内板裏】 - 奨学金、海外留学関係

6. 日本学生支援機構申し込み【在学採用】第一種（無利子貸与）・第二種（有利子貸与）

4月10日（金）までに、A クラスター教務掛（090kakyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp）にメールで申し出て
ください。平日2日たっても事務からの返信がない場合は窓口まで来てください。

【件名：学生支援機構在学採用希望 本文：専攻名・学生番号・氏名】

7. 海外渡航について

海外渡航を行う場合は、短期間の観光旅行であっても、必ず事前にAクラスター教務掛への届け出とたび
レジ（外務省の海外旅行登録システム）に登録してください。

京都大学工学研究科 HP→海外渡航届様式【両面印刷】 <https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja>

外務省→たびレジ HP <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

- ・海外に渡航する場合は、学会出席・留学・インターンシップ・私事（帰省・観光旅行等）、目的を問
わず、必ず「海外渡航届」を提出すること
- ・渡航目的が資料収集・調査、学会発表、セミナー参加等の研究目的であって、その渡航を主指導教員
が修学上必要と認めている場合、「アイラック危機管理支援システム（旧 JCSOS 緊急事故支援シ
ステム）」に事務より登録するため、「海外旅行保険」へ加入（必須）すること

※アイラック危機管理支援システム：本研究科教職員・学生が海外で事件・事故等の不測の事態
に遭遇した場合に、事故対応費用、補償金対応等の大学としてのリスク管理を目的として加入
するもの

※海外旅行保険：治療・救援費用、補償金額無制限～最低でも 3000 万円以上、クレジットカード
ド付帯保険は補償金額が少ないので不可

8. 学生証について

学生証で A クラスターの各建物への入館が可能となっている。問題があれば、A クラスター事務区教務
掛に申し出ること。IC チップの破損による学生証の再発行は有料なので取扱いに十分注意すること。

9. 証明書の発行について

証明書の主なものは証明書自動発行機で発行できます。

※証明書予約アプリ・・・操作時間を短縮するために予めスマートフォンで必要な証明書の種類と
枚数を予約することができます。アプリは右記 QR コードからダウンロードしてください。



10. 各種注意事項

◇事務からのメールは京都大学の「@st.kyoto-u.ac.jp」宛に送信されます。必ず普段使用しているメール
アドレスに転送設定をしておいてください。転送設定をしていない場合のメールの不達は個人の責任
になります。

◇バイク・自転車等は必ず所定の駐輪場へ停めて下さい。（事務室前は駐輪禁止）

11. その他 A クラスター事務区教務掛 事務取扱時間

月～金 8時半～12時、13時～17時（12時～13時は昼休みで窓口は休止。鍵の貸出のみ対応可。）

（土日・祝、創立記念日、年末年始、全学・工学休業日（8月11日～8月14日）を除く）

履修登録の方法について

・ KULASISで履修登録



① KULASISにログイン



② MyPage「履修登録」タブをクリック



③ 履修登録開始

履修登録の流れ

－ 2020年度スケジュール－ KULASISでは以下①～④の日程で履修登録を行います。

1. 時間割作成期間 → P 3 へ

【前期】 4月2日（木）～4月16日（木）

【後期】 9月23日（水）～10月11日（日）

- 履修したい科目を選択して、時間割を作成する期間です。
- 「候補科目設定」画面で、候補科目を選択してください。

2. 履修登録期間 → P 4 へ

【前期】 4月17日（金）～4月20日（月）

【後期】 10月12日（月）～10月13日（火）

- 履修する科目を決定し、実際に履修登録を行う期間です。
- ①で選択した候補科目のうち、登録科目を決定してください。

※履修登録した科目リスト（PDF）を印刷し、修正期間終了までに指導教員の先生に確認印を頂き、Aクラスター教務掛に提出する。

3. 確認・修正期間 → P 5 へ

【前期】 4月23日（木）～4月24日（金）

【後期】 10月16日（金）～10月19日（月）

- 登録した科目を確認し、エラーを修正する期間です。
- 必ず②の登録内容を確認し、不備があれば修正してください。

※修正がある場合は修正後の時間割を画面印刷し、指導教員の先生に確認印を頂き、Aクラスター教務掛に提出する。

4. 履修登録確定 → P 6 へ

【前期】 4月28日（火）

【後期】 10月21日（水）

- 確定日以降、My Page に「時間割」タブが表示されます。
- 表示されている登録科目の最終確認を行ってください。

1. 時間割作成期間

【前期】 4月2日(木)～4月16日(木)
 【後期】 9月23日(水)～10月11日(日)

(1) 候補科目の追加

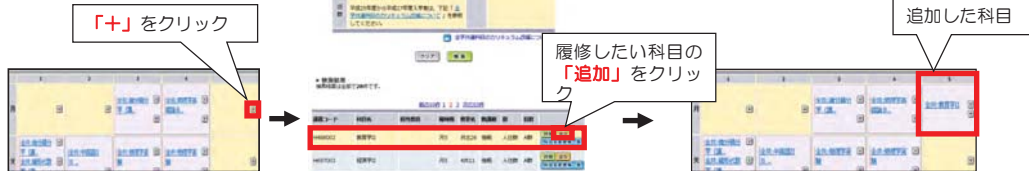
①「専門科目」または「全学共通科目」を選択し、科目を検索してください。その曜時間に登録可能な科目の一覧が表示されます。

専門科目or全学共通科目

②該当する曜時間に、候補科目が追加されます。1つの曜時間に最大3科目まで候補科目を選択することができます。

★条件を細かく指定して検索

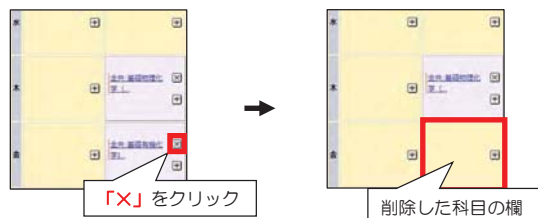
1項目以上に入力して[検索]をクリックすると、該当する科目が表示されます。



この時点で、履修登録はまだ完了していません!

(2) 候補科目の削除

追加した科目を削除したい場合は・・・



(3) 履修登録科目選択リストの印刷

【履修登録科目選択リストの印刷】をクリックすると、リストがPDFファイルで表示されます。候補科目の決定に役立ててください。



3

2. 履修登録期間

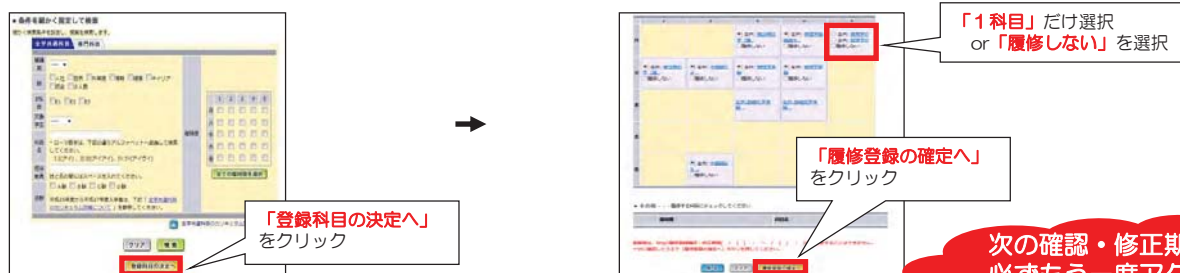
【前期】 4月17日(金)～4月20日(月)
 【後期】 10月12日(月)～10月13日(火)

※この期間から確認・修正期間終了の間に履修登録した科目リスト(PDF)【履修登録入力確認用科目選択リスト(本人控)】に指導教員の確認印を受け、Aクラスター 教務室に提出して下さい。

(1) 登録科目の決定

①候補科目を決定したら、画面の指示に従って登録してください。一度確定すると、確認・修正期間まで変更できませんので、注意してください。

②ひとつの曜時間に複数の候補科目を選択した場合(赤枠で囲われている曜時間)は、履修する科目を1つだけ選んでください。どの科目も履修しない場合は「履修しない」を選んでください。



次の確認・修正期間に必ずもう一度アクセスしてください!

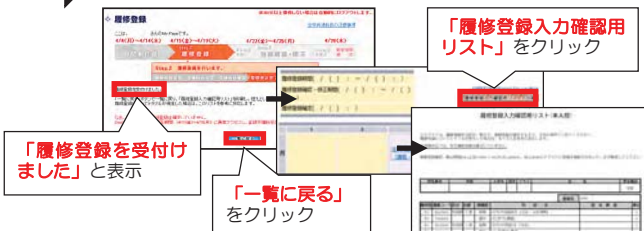
(2) 最終確認

最終確認画面が表示されます。間違いがないか、科目名・曜時間・担当教員等をしっかり確認してください。訂正がある場合は、「戻る」をクリック、登録をやり直してください。

間違いがなければ「確定」をクリック



(3) 履修登録入力確認用リストの印刷



★受付完了メール 確定後、メールが届きますので、確認しておいてください。

履修登録を受け付けました。
 なお、この時点では履修登録は確定していません。履修登録確認・修正期間(4/21(金)00:00～4/25(月)24:00)に再度アクセスし、登録不備科目がないか必ず確認してください。
 このメールはシステムから自動で送信しています。返信はできませんので、ご不明な点がございましたら下記までご連絡ください。
 京都大学全学連科長事務室
 TEL: (075)753-6509

履修登録した科目リストが、PDFファイルで作成されます。印刷又は保存して、本人控えとして大切に保管しておいてください

4

3. 確認・修正期間

【前期】 4月23日(木)～4月24日(金)
【後期】 10月16日(金)～10月19日(月)

※履修登録を修正する場合は修正後の時間割を画面印刷したものに指導教員の確認印を受け、Aクラスター教務掛へ提出して下さい。
※提出は上記期間中に！

この期間に、履修登録確認・修正画面が表示されます。履修登録期間に登録した科目について不備があった場合、エラーメッセージが表示されます。必ずアクセスして登録内容に不備がないかを確認し、不備がある場合は修正してください。この期間以降に登録内容の修正は一切できません。



(1) 修正しない場合
「修正しない」をクリックしてください。

(2) 修正する場合
「修正する」をクリックしてください。

「修正しない」をクリック

最終確認画面が表示されます。登録内容に間違いがないかを確認し、修正がある場合は[戻る]をクリックしてやりなおしてください。

間違いがなければ「確定」をクリック

エラー科目
以下の科目エラーにより登録できませんでした。エラー内容を確認の上、登録内容の修正を行ってください。
エラー内容

「修正する」をクリック

「登録科目の決定へ」をクリック

「履修登録の確定へ」をクリック

「確定」をクリック

エラー科目があれば、時間割の下に表示されます。エラー内容をよく読み、不備のあった科目を再度登録する場合は不備を解消して科目を追加してください。

4. 履修登録確定

【前期】 4月28日(火)
【後期】 10月21日(水)

履修登録が確定すると、「時間割」のタブが表示されます。このページで履修登録した科目の時間割を確認することができます。ただし、追加・削除等の変更はできません。

「工学研究科」をクリック

「時間割」をクリック

履修登録の再確認は、このページで行ってください。

★履修登録確認表
確定後、1週間はこちらの表でも確認することができます。

【注意事項】

●履修登録の【確定】について

履修登録を確定する前に、確認画面が表示されます。確認するだけでは履修登録が確定されませんので、最後に必ず【確定】ボタンを押してください。候補科目を選択後、「確定」ボタンを押し忘れると、全ての科目が未登録になってしまうため、特に注意してください。なお、【確定】を受け付けると、KULASISで登録されたメールアドレス宛に受付完了メールが送信されます。

●履修登録の【確認】について

「2. 履修登録期間」または「3. 確認・修正期間」のどちらか一方の期間でのみ、【確定】ボタンを押した場合でも確定として扱われますが、エラー科目（登録不備）があると、その科目は登録されません。履修登録確定後は修正等を行うことができないため、必ず「3. 確認・修正期間」に登録内容を見直してから、改めて【確定】ボタンを押してください。

●登録科目の【指導教員の確認】について

履修登録入力確認用科目選択リスト（本人（控））

を印刷し、指導教員の先生に確認・押印を頂き、【確認・修正期間終了までに】Aクラスター教務掛へ提出して下さい。

登録した科目を修正する場合は、確認・修正期間に修正し、修正後の時間割を画面印刷したものに指導教員の押印を頂き、Aクラスター教務掛へ提出して下さい。

学生証について

①記載内容に誤りがないか確認してください。

②初期不良がないか確認するために、**認証できるか確認してください。**

●大学生協のレジ・カウンター、証明書自動発行機、附属図書館入館ゲート等

2020年5月末までに初期不良が確認された場合は、無償で再交付します。

まず確認!

非接触ICチップ
埋め込み



磁気ストライプ



学生証の色
学部学生：オレンジ
修士・専門職学位課程：緑
博士後期・博士課程：ピンク

1. はじめに

ICチップ搭載の学生証は、物理的なセキュリティおよび情報セキュリティの強化並びに皆様の利便性向上を目的に、平成22年1月より導入されました。

2. どんな機能があるの？

学生証には次のような基本的機能がある非接触ICカードです。

- ①券面による身分証機能 (IC学生証、京大生協組合員証)
- ②磁気ストライプ機能 (各施設の入館などに利用します)
- ③生協電子マネー機能 (京大生協に加入することにより利用できます)

3. どんなシーンで利用できるの？

- ・非接触ICカードの機能を利用して、各施設への出入り、電子マネー、証明書自動発行機に利用できます。
- ・今後、他のサービスにも使えるようにしていきます。

4. どんな事に注意したらいいの？

- ・学生証には券面も含め皆様の重要な情報が格納されていますので、他人への貸与や譲渡は絶対にやめてください。
- ・衝撃が加わったり、折れ曲がったり、水に濡れたりするとICチップが破損・故障し、使用できなくなります。裏面の磁気ストライプは、テレビ・携帯電話・ヘッドホンステレオ・バッグや財布の口金等磁気を帯びたものに近づけると、カードの磁気が低下します。取り扱いには注意してください。
- 紛失、破損、盗難の場合、再交付費用は自己負担になります。**
- ・身分証ですので、常時携帯願います。

5. こんなときはどうするの？

(1) 紛失、盗難、破損等したとき：

紛失、盗難、破損等の場合は、所属学部・研究科等の教務担当掛へ、再交付を申請してください。

なお、紛失・盗難の場合は、警察の届出受理番号が必要となります。第三者による悪用を防止するためにも、直ちに警察へ届け出て、届出受理番号を聞いておいてください。

また、紛失・盗難・破損時等の再交付は有料となりますので、予め京大生協で「再交付料金納付証明書」を購入のうえ、学生証再交付願に貼付し、教務担当掛に提出してください。

生協組合員の方は直ちに生協に連絡し、電子マネー機能を停止してください。

(2) 磁気ストライプの磁気異常のとき：

教務企画課(吉田南構内：国際高等教育院棟2階)で再書き込みを行います(無料)。

ただし、磁気ストライプおよびICチップが破損している場合は有料での再交付となります。

(3) 卒業／修了／退学等したとき：

・生協組合員の方は最初に生協の窓口にて脱会処理等を行い、電子マネーを停止してください。

ただし、3月卒業・修了者で4月以降も引き続き、本学の学生(正規生)として在籍する場合、新学生証と旧学生証の両方を京大生協の窓口を持って行き、電子マネー機能の切替を行ってください。詳細は京大生協にお問い合わせください。

・3月卒業・修了者以外は所属学部・研究科等の教務担当掛へ学生証を返却してください。

3月卒業・修了者は返却不要です。

(4) 改姓・改名により記載内容が変わったとき、有効期限を過ぎて在籍するとき：

所属学部・研究科等の教務担当掛にて所定の手続きを取ってください。



通学定期券購入方法について



証明書自動発行機で発行した**通学証明書**と**学生証**が必要です。

なお、入学手続き時に現住所が確定していなかった方は、現住所が登録されていませんので、所属学部・研究科等教務掛で登録した翌日以降にしか通学証明書は発行できませんのでご注意ください。

通学証明書の発行方法

- ①学生証を自動発行機のICリーダー部分にかざし認証させる
- ②パスワードを入力
学生証とともにECS-ID（学生アカウント）通知書を配付しております。通知書に基づき設定したパスワードを入力してください。（パスワードがわからなくなった場合は、通知書に記載されたとおり再度処理するか、学術情報メディアセンターにお問い合わせください。）
- ③証明書種類で通学証明書の発行を選択
・複数の交通機関を利用する場合、各交通機関ごとに通学証明書の提出が必要です。
- ④現住所がディスプレイに表示される
・正しければ確認ボタンを押し発行
・間違っている場合、住所データが登録されていない場合はKULASISから住所変更の申請を行ってください。正しい住所での発行は、申請が承認された日の翌稼働日以降となります。

通学定期乗車券の購入方法

- ①通学証明書に必要事項を記入します。
(通学証明書の有効期限は1ヵ月以内です。)
 - ・ **通学区間**
※現住所の最寄り駅から大学（通学キャンパス）の最寄り駅までの最短区間に限ります。
 - ・ **通学定期乗車券の有効期間**
- ②交通機関の定期券発売所に次のものを持参して購入してください。
 - ・ 通学証明書
 - ・ 学生証

No.			
通 学 証 明 書			
学校種別 又は指定番号	大	学	区 分
通学者の氏名・ 年齢及び性別	京大 太郎 (20歳) 男		
通学者の居住地	大阪府大阪市北区梅田3丁目1-1 ○×ハイツ101号室		
部 科 及 び 学 年	工学部地球工学科 2 学年(年次)		
証 明 書 番 号	1023-20-1111		
通 学 区 間	駅	駅間	経由
通学定期乗車券の有効期間	年月		
※通学定期乗車券の使用開始日	平成	年	月 日から
通学証明書の有効期限	平成	22年	3月 9日 まで
平成 22年 2月 10日 発行			
学 校 所 在 地	京都市左京区吉田本町		
学 校 名	京都大学工学部		
学校代表者氏名	工学部長 大嵐 幸一郎		
	代表者 職 印		
1 この証明書の有効期限は、発行の日から上記の期限まで(1箇月間)です。 2 この証明書のうち、赤印の欄以外の記入事項は、発行者が記入してください。 3 この証明書のうち赤印の欄は、通学者が記入してください。 4 この証明書に記入した事項を訂正した場合は、赤印欄の記入事項については通学者の 捺印、その他の記入事項については代表者の捺印のないものは使用できません。 5 上記証明書の学校所在地は、学生の通学地を記載しているため、学生証記載の学部等所在地と 異なる場合があります。 下欄には、記入しないでください。			
年 月 日まで			
(発行駅)	(乗車券番号)	(発行年月日)	
(基本運賃)	(発売運賃)	(他額運賃)	

不正購入の禁止について

本学の学生が通学を目的として、交通機関の定期乗車券を購入する際にのみ、割引制度を受けることができます。通学定期乗車券の購入は、現住所の最寄り駅から大学（通学キャンパス）の最寄り駅までの最短区間に限ります。区間を偽って購入したり、通学以外の目的（サークル活動・アルバイト通勤など）で購入することは不正購入となります。不正購入はいかなる場合であっても許されません。

本人に多額の追徴金が課せられるばかりか、本学学生の通学定期乗車券の販売が制限される場合がありますので、絶対に不正購入はしないでください。

About Student ID Card

① Check the IC Student ID Card to make sure there is no error in the entered information.

② In order to find defectives at default stage, please test the card to see it works to indicate your identity correctly.

● If the card is found to be initially defective, the card will be replaced free of charge by the end of May, 2020.

First of all, check your card!

Non-contact IC chip, data already entered



Magnetic stripe

Color of the Card
Undergraduates : Orange
Master's and Professional degree students : Green
Doctoral students : Pink

1. Introduction

The IC Student ID Card has been introduced in order to improve physical strength, data security and convenience for everyone. The IC Student ID Card will be loaned to all students by the university.

2. What are the functions of the IC card?

The IC Student ID Card is a non-contact IC card with the following basic functions.

- ① Personal identification by the surface view of the card (IC Student ID, Kyoto University Co-op membership ID)
- ② Magnetic stripe function (To be used for entrance to the university libraries etc.)
- ③ Co-op electronic money function (Payments at the Kyoto University Co-op members)

3. How IC Student ID Card can be used ?

- You can use the non-contact IC Student ID Card as identification for the entrance and exit of the various facilities, for cash settlements as electronic money, and for requesting certificates through automatic certificate issuing machine.
- In the future, other services will be added.

4. Points need to be noted.

- Various information and private information is entered and indicated on the surface of the IC Student ID Card, so never give or rent it to anyone.
 - The IC chips are easily damaged by giving a strong force, bending it or getting wet.
- If the magnetic stripe function of the student ID card gets close to TV, cell phone, headphones or any other static devices, the magnetic stripe will lose its magnetic force. Please handle it with care.

If the card is lost, damaged, or stolen, you will be charged a re-issuance fee.

- This IC Student ID Card is your identification card, so always keep it with you.

5. Actions be taken.

(1) When your IC Student ID Card is lost, stolen, or damaged, etc :

If the card is lost, stolen, or damaged, please go to the Student Affairs Office of your Faculty/Graduate School, and apply to have the card reissued.

If your IC Student ID Card is lost or stolen, it is necessary to have a police registration number of your notification. In addition, there is a fee to have the card reissued if it is lost, stolen or damaged. Before you apply for a reissued card, obtain a "Certificate for payment of fee for Reissuance of IC Student ID Card"(tentative) at a Kyoto University Co-op shop, attach the certificate to the IC Student ID Card Reissue Application form, and submit it to the Student Affairs Office. Co-op members should immediately contact the Co-op and have the electronic money function disabled.

(2) When magnetic stripe becomes defective:

The magnetic stripe can be rewritten (free of charge) at the Educational Planning Division office, (Yoshida South Campus: 2nd floor of ILAS building.) However, if the magnetic stripe is physically damaged, there will be a charge to have the card reissued.

(3) When you graduate/complete your course/withdraw from the university :

• For students who have graduated, completed their course or withdrawn from the university and will not stay at the university as students (regular students) after following month, the procedure is as follows:

Co-op members should first go to the Co-op and withdraw from the association, and have the electronic money function disabled (this only applies to Co-op members: ask for details at the Co-op). Then go to the Student Affairs Office of your Faculty/Graduate school and return your IC Student ID Card.

• For students who have graduated or completed their course, and who will, from the following month, stay as a student. (regular student) at the university, the procedure is as follows:

It is not necessary to return your IC Student ID card, but the Co-op members, after receiving a new Student ID card. Should take to the Co-op counter both of your new and old Student ID cards, and apply for the updating the electronic money function (ask for details at the Co-op)

(4) When your name is changed or when you stay as a student longer than the valid terms of stay at Faculty/terms of residence in Graduate School :

Please take appropriate procedures at the Student Affairs Office of your Faculty/Graduate school.

For the new students



The procedure of purchasing Student Pass



It is necessary to have both a **School Commuting Certificate** issued by the automatic certificate issuing machines and your **Student ID Card**.

If you didn't confirm your current address when applying for admission, your current address will not be registered. Therefore, please be aware that we can only issue the commuting certificate the day after registering your current address at your faculty/Graduate School.

Issuance of the School Commuting Certificate

① Hold your Student ID Card over the IC reader of the automatic certificate issuing machine to have it certified.

② Enter your password.

Along with your student ID card, we have given you an "ECS-ID" (student account) notification. Based on the procedure of the given notification, please set and enter your password. (If you have forgotten your password, please inquire IIMC.)

③ Selecting the School Commuting Certificate among the various types of certificates available.

• If you use multiple transportation systems, it is necessary to have a School Commuting Certificate for each system.

④ Your present address will be shown on the display

• if the address is correct, press the "Confirm" (確認) button.

• if the address is not correct, please correct your address through KULASIS.

Certificate reflecting correct address will be issued on the following business day thereafter.

Purchasing Student Pass

① Fill in the necessary items in the School Commuting Certificate

(The School Commuting Certificate is valid for up to 1 month.)

• **Student Pass route**

※ limited to the route between the station closest to your present address and the station closest to the university (School campus).

• **Valid period for the Student Pass**

② Take the following items with you to the Commuter Pass sales office at the transportation system concerned in order to purchase a Student Pass.

- School Commuting Certificate
- IC Student ID Card

Prohibition of illegal purchases of Student Pass

Discounts are only available when a student of Kyoto University purchases a Student Pass in order to attend school. The purchase of a Student Pass is limited to the route between the station closest to your present address and the station closest to the University (School campus.)

Large penalties or fines may be imposed on anyone found to have illegally purchased a Student Pass, and additionally, the sale of Student Pass may be restricted for students at Kyoto University, so absolutely do not purchase Student Pass illegally.

No.		通学証明書	
学校種別 又は指定番号	大	学	区分
通学者の氏名・ 年齢及び性別	京大 太郎 (20歳) 男		
通学者の居住地	大阪府大阪市北区梅田3丁目1-1 ○×ハイツ101号室		
部科及び学年	工学部地球工学科	2	学年(年次)
新原番号	1023-20-1111		
通学区間	駅	駅間	経由
通学定期乗車券の有効期間	年月		
※通学定期乗車券の使用開始日	平成	年	月 日から
通学証明書の有効期限	平成	22年	3月 9日 まで
平成 22年 2月 10日 発行			
監	学校所在地	京都市左京区吉田本町	代表者 職印
明	学校名	京都大学工学部	
	学校代表者氏名	工学部長 大嶺 幸一郎	
<small>1 この証明書の有効期限は、発行の日から上記の期限まで(1箇月間)です。 2 この証明書のうち、赤印の欄以外の記入事項は、発行者が記入してください。 3 この証明書のうち赤印の欄は、通学者が記入してください。 4 この証明書に記入した事項を訂正した場合は、赤印欄の記入事項については通学者の 職印、その他の記入事項については代表者の職印のないものは使用できません。 5 上記証明書の学校所在地は、学生の通学地を記載しているため、学生証記載の学部等所在地と 異なる場合があります。 下欄には、記入しないでください。</small>			
年 月 日まで			
(発行駅)	(乗車券番号)	(発行年月日)	
(基本運賃)	(発売運賃)	(他額運賃)	

情報セキュリティ対策のお願い(1)

ウイルス、マルウェア対策

- 工学部／工学研究科において多発しているセキュリティ事故と、その主な経路
 - マルウェア感染(最多)
 - 信頼できないダウンロードサイト、メールリンクによる誘導
 - ID・パスワード盗用
 - 脆弱なパスワードの使用、フィッシングメール
 - P2Pソフトの利用 → 次スライド
- 自宅等、学外にてご利用のPCについても
 - OS、ソフトウェアの定期的なアップデート
 - ウイルス対策ソフトウェアの導入を行うことを強く勧めます。
※ウイルス対策ソフトウェアについては、一部のソフトウェア会社が家庭内・非商用での利用目的に限定した無料版を提供しています

情報セキュリティ対策のお願い(2)

著作権保護、P2Pファイル交換ソフトウェアについて

- 特別な理由がない限り、学内ネットワーク(KUINS)においてP2Pファイル交換ソフトの利用は禁止されています。
自宅でP2Pソフトウェアを起動したPCを、学内ネットワークに接続することで、規程違反に問われるケースが報告されています。
- 電子ジャーナルをはじめとする資料は個人利用の範疇で利用し、複製や再配布は行わないでください。
- 著作権を侵害していると思われるコンテンツ(いわゆる「海賊版」)を利用しないでください。
学外でのPC利用においても、京都大学の構成員、並びに社会人として節度ある行動を願います。

情報セキュリティ対策のお願い(3) e-Learning の受講

「**京都大学情報セキュリティ e-Learning**」を受講してください

- 大学が提供する
 - 教育用計算機システム
 - 電子ジャーナル、データベース
 - 電子メール等を利用する上で、最低限知っておくべき内容です
- 受講方法

<http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/ismo/e-Learning/>

にアクセスしてください。

(情報環境機構のページからもたどれます)

ECS-ID により受講者の確認をします



左の2次元バーコード
を読み取ることで
アクセスできます。

**本日の受講を
推奨します。**

※未受講者の方は**大学ネットワーク接続に制限**がかけられる予定です。また**個別にご連絡**することがあります。

<http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/ismo/e-Learning/>

Information Security Measures (1)

Virus and malware protection

- Security incidents occurring in the Graduate School of Engineering and Faculty of Engineering and the causes.
 - **Malware attack** (most common)
Download from untrustworthy website, link in e-mail
 - Password/ID theft
Weak password, phishing
 - Use of P2P file sharing software
- On your computers off-campus, e.g., in your home
 - Regularly **update OS and applications software**.
 - Install **anti-virus software**.
Several anti-virus vendors offer their products free of charge (only for non-commercial, personal home use).

Information Security Measures (2)

Copyright protection, P2P file sharing software

- **P2P file sharing software is prohibited on the campus network (KUINS)**, unless there is a special reason.
There have been regular cases of people charged with violation of the regulation, because he/she launched a P2P program on his/her laptop in their home and then connected it to the campus network.
- E-resources, such as e-journals, may only be used for private purposes. Any Reproduction and/or distribution are strictly prohibited.
- **Do not use any infringing product (known as *pirated copy*)**.
You should conduct yourself in a sensible manner as a member of Kyoto University and society, even off-campus.

Information Security Measures (3) e-Learning

Take e-Learning courses on information security

- Kyoto University offers various information services:
 - Educational Computer System
 - E-Journals, Databases
 - E-mail

You can learn the basic security knowledge that is required to use these services.

- <http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/en/services/ismo/e-Learning/>

(There is a link on the homepage of the Institute for Information Management and Communication.)

Your ECS ID is required to take these courses.



You can access the web page via the left matrix barcode.

Take these courses **today.**

※If you have not taken the courses, **network access on campus will be restricted.** (You may be asked to explain the circumstances.)

<http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/en/services/ismo/e-Learning/>

2015年3月配布

京都大学大学院共通 研究公正と倫理

京都大学研究公正教育小委員会
担当委員: 大学院医学研究科
社会健康医学系専攻健康情報学分野
宮崎 貴久子 中山 健夫

お話す予定

1. 京都大学の研究公正の考え方
2. 研究不正として何が問題なのか？
 - 1) 参加者(弱者)(Research participants)保護
 - 2) 科学的な不正行為(Scientific misconduct)
 - 3) 出版の倫理(Publication ethics)
 - 4) 利益相反(Conflict of Interest: COI)
 - 5) 復習問題: 何が問題なのか？
3. 「私はどうすればいいのか?」: 事例に学ぶ
4. 京都大学の取り組み

2

京都大学の研究公正の考え方

「志の高い」研究
の仕組み作り

研究不正の防止

(http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/events_news/office/kenkyukokusai/events/2014/140714_1.html)

3

京都大学の研究公正の考え方

研究不正の
防止

「志の高い」研究の
仕組み作り

積極的な視点

(http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/events_news/office/kenkyukokusai/events/2014/140714_1.html)

4

京都大学の研究公正の考え方

研究不正の防止を超えて
— 志の高い研究の仕組み作りを考える —

研究者による研究論文の捏造・改ざん・盗用、いわゆる研究不正の防止については、個々の研究者の自覚が求められています

研究不正がおこらないような「仕組みづくり」も必要です。その仕組み作りを有意義なものとするには、単に不正を防止するという消極的な視点にとどまらず「志の高い」研究を目指すという積極的な視点が肝要です

(http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/events_news/office/kenkyukokusai/events/2014/140714_1.html)

5

京都大学の研究公正の考え方

研究不正の防止

何が問題なのか？
何を自覚すればよいのか？

聞きなれない単語が出てきますが、覚えてください。それらの単語が、研究不正として問題になります。

6

お話する予定

1. 京都大学の研究公正の考え方
2. 研究不正として何が問題なのか？
 - 1) 参加者(弱者)(Research participants)保護
 - 2) 科学的な不正行為(Scientific misconduct)
 - 3) 出版の倫理(Publication ethics)
 - 4) 利益相反(Conflict of Interest: COI)
 - 5) 復習問題:何が問題なのか？
3. 「私はどうすればいいのか?」:事例に学ぶ
4. 京都大学の取り組み

7

研究不正として何が問題になるのか？



8

研究不正として何が問題になるのか？



9

参加者保護(研究倫理)

同意取得
 OECD (Organisation for Economic Co-operation and Development)
 :経済協力開発機構)8原則(1980)
 →個人情報保護法(2005)

参加者保護
 日本学会会議(2013)
 科学者は、研究への協力者の人格、人権を尊重し、福利に配慮する。動物などに対しては、真摯な態度でこれを扱う
 ヘルシンキ宣言(1964 世界医師会、2013 ブラジル・フォルタレザ改訂)
 :ヒトを対象とした医学研究の倫理原則
 文部科学省・厚生労働省
 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(2015)

(<http://www.scj.go.jp/ja/scj/kihan/index.html>)
 (http://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n1443_01.pdf)

10

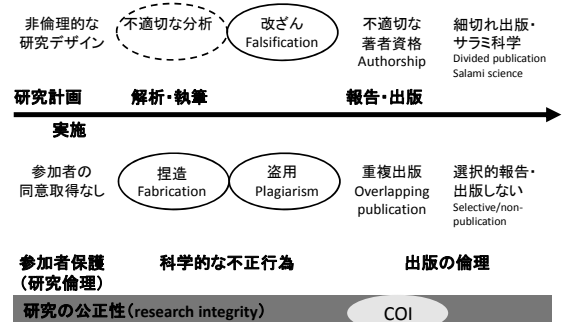
参加者保護(研究倫理)

〈対策〉
 参加者保護
 研究計画書を倫理委員会へ申請し、承認を得る
 ←研究計画書に第三者の目を通す

分析方法
 研究計画書に解析計画を明記
 研究デザイン(観察研究など)によっては、データ収集後、分析に着手する前に解析計画書を作成
 分析手順を研究ノートに記載

11

研究不正として何が問題になるのか？



12

科学的な不正行為

FFP

捏造 (Fabrication)
存在しないデータ、研究結果の作成

改ざん (Falsification)
データや画像、研究結果の変造・偽造

盗用 (Plagiarism)
他人のアイデアやデータ、研究成果を適切な引用なしで使用

13

⚠ 注意！ 改ざんとみなされないために

画像データのトリミング
デジタル画像の操作
〈対策〉
元の画像を提出する

データ浚渫 (data dredging)
二次解析による知見
〈対策〉
二次解析による探索的結果と明記して発表する

14

⚠ 注意！ 盗用とみなされないために

つぎはぎ (patch) writing
英語を母国語としない著者が、上手な英語の表現を用いて、自分の文章を良くしようとする事
⇒西洋では、盗用とみなされる(文章チェックのソフト)
〈対策〉
1. 一言一句引用する場合は“引用符”を付ける
2. 自分の表現で書き直して引用文献を明示する

15

⚠ 注意！ 盗用とみなされないために

自己盗用 (self-plagiarism)
以前に出版したものを新しい編集者や読者に開示せずに再提出すると、潜在的な複製出版や潜在的な著作権侵害とみなされる
⇒専門家は自分の著述を繰り返す
〈対策〉
念のために、新しい編集者に元の出版物について知らせ、参照文として引用する

16

FFPの判定は難しい

うっかり引用忘れ (honest error) なのか？
故意なのか？ 白黒がつかないことが多い

不正など自分には全く関係が無い？
ある日突然、自分が疑われる場合がないとは言えません
〈対策〉
1. 信頼できる教員や知人に、まず相談
2. 研究ノートを付け、研究プロセスを残す
研究ノートは、自分のデータであるとの証拠になり、同時に疑われた場合の自衛策としての証拠にもなる

17

研究不正として何が問題になるのか？

非倫理的な 研究デザイン	不適切な分析	改ざん Falsification	不適切な 著者資格 Authorship	細切れ出版・ サラム科学 Divided publication Salami science
研究計画	解析・執筆	報告・出版		
実施				
参加者の 同意取得なし	捏造 Fabrication	盗用 Plagiarism	重複出版 Overlapping publication	選択的報告・ 出版しない Selective/non- publication
参加者保護 (研究倫理)	科学的な不正行為		出版の倫理	
研究の公正性 (research integrity)			COI	

18

出版の倫理

医学雑誌編集者国際委員会 推奨(2014)
(International Committee of Medical Journal Editors: ICMJE)

著者資格 (Authorship) の4規準

1. 研究構想およびデザイン、データ取得、データ分析および解釈において相応の貢献があり、そして
2. 論文作成または重要な知的内容に関わる批判的校閲に関与し、そして
3. 出版原稿の最終承認を行い、そして
4. 論文の全ての面において、そのいかなる部分についても、正確性と公正性に関する問題が適格に調査され解決されるように、説明責任を負うことに合意している

19

出版の倫理

重複出版

1. 多重投稿 (duplicate submission)
同一論文を同時に複数の雑誌に投稿してはならない
2. 多重出版 (duplicate publication)
出版された論文と大部分が重複する(多少の未発表データを追加した)論文を、先に出版された論文への明確な言及をせずに掲載してはならない

20

出版の倫理

二次出版(翻訳など)が容認される6条件

1. 両誌の編集者の了解を得ている
2. 初版の優先権を尊重し、双方の編集者と出版時期を取決め
3. 異なる読者層と言語
4. 初版のデータと解釈を忠実に反映
5. 二次出版のタイトルページの脚注で並行出版であること、一時出版の書誌情報を明記
6. MEDLINEの掲載誌で発表された場合は、翻訳版(二次出版)の引用・登録はしない

21

出版の倫理

細切れ・サラム出版

同一のデータベースに属する研究結果を、同一プロジェクトであると示さずに、できるだけ多くの出版可能な論文に分割する(対策)
大規模プロジェクトのサブグループ解析は、プロジェクト名と臨床試験登録番号を明示

選択的報告・出版しない(いいとこ取り: cherry picking)
有意差が見られた結果だけを、それが主分析のように書く(対策)
臨床試験登録、研究計画書(プロトコール)公開

22

研究不正として何が問題になるのか？



23

利益相反

(Conflict of interest: COI)

科学者は、自らの研究、審査、評価、判断、科学的助言 などにおいて、個人と組織、あるいは異なる組織間の利益の衝突に十分に注意を払い、公共性に配慮しつつ適切に対応する

(日本学術会議、科学者の行動規範-改訂版、2013)

利益相反(COI)は、研究の妥当性など一次的な関心事における専門的判断が、財政的利益のような二次的な関心事に影響される場合に現存する

(ICMJE, recommendations, 2014)

(<http://www.icmje.org/icmje-recommendations.pdf>)

24

利益相反 (COI)

COIは財政的利害関係だけではない
 →査読者は出版に先立ち、査読した論文から得た知識を自らの利益のために使ってはならない

COIは、相反があるだけでは不正行為を意味するものではない ⇒適切に開示
 COIの報告と透明性確保 →研究の信頼性を確保

25

京都大学利益相反マネジメント規程

平成26年(2014年)1月21日 達示第79号制定

「利益相反」とは、次に掲げることをいう。
 ア 本学が企業等との共同事業に従事すること(以下「産官学連携活動」という。)に伴い、企業等から得る利益を優先することによって本学の社会的責任が阻害されること

イ 教職員等が産官学連携活動を行うことに伴い、企業等から実施料収入、兼業報酬、未公開株その他の利益を得ている場合において、当該利益を得ていることに起因して自己又は企業等の利益を優先することによって当該教職員等の本学における適正な職務の遂行が阻害されること

ウ 教職員等が兼業を行うことに伴い、企業等に対し職務遂行責任が生じる場合において、当該企業等に対する職務遂行責任を優先することによって当該教職員等の本学における適正な職務の遂行が阻害されること

(http://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/kitei/reiki_honbun/w002RG00001171.html)

26

科学者の行動規範

日本学術会議-改訂版 2013年

(研究活動)

科学者は、自らの研究の立案・計画・申請・実施・報告などの過程において、本規範の趣旨に沿って誠実に行動する。科学者は研究成果を論文などで公表することで、各自が果たした役割に応じて功績の認知を得るとともに責任を負わなければならない。研究・調査データの記録保存や厳正な取扱いを徹底し、ねつ造、改ざん、盗用などの不正行為を為さず、また加担しない

27

復習問題:何が問題なのか?

28

サマーリン事件(1974年)

スローン・ケタリングがん研究所の移植免疫部門の部長であったウィリアム・サマーリンは遺伝的に無関係の動物からレシピエント動物へと、拒否反応なしで組織を移植したと発表

「移植した皮膚」である黒い斑点が背中にある白いネズミを見せ、その主張を裏付けた

しかし、彼は これらの「移植された斑点」をサインペンでネズミの皮膚に描いていた

(ラング、シナジー、2012年)

捏造 

29

アルサブティ事件(1977年)

アメリカの研究機関で働いていたエアラス・アルサブティは、読者の少ない雑誌に、盗用した論文を罰せられることなく発表していた

彼の目的は、他の多くの科学者同様経歴を飾るための長々しい論文リストによって出世すること

こうして彼は三年もの間盗用を続けた

しかし、論文の一言一句まで無造作に盗む彼の性急なやり方は、ついには彼を破滅へと追いやった

これがもっと穏やかな方法であれば発覚しなかったことだろう

(ブロード、講談社、2014)

盗用 

30

シンドロイド・ケース(1997年)


甲状腺機能低下症患者の薬シンドロイド(甲状腺ホルモン製剤)が、後発薬品より優れていることを示す研究を、企業が支援したが、期待通りの成果がでなかった

研究者の結果発表を、企業は、結果発表には企業の許可を要するとした契約条項を盾に、阻止

研究者の雇用者であるカルフォルニア大学は高額で長期化する訴訟を恐れて、論文出版を取り下げるように研究者に命じた

研究発表までの6年間で、企業はその薬品で8億ドルの利益を得た

(<http://www.nytimes.com/1997/04/16/us/drug-firm-relenting-allows-unflattering-study-to-appear.html?pagewanted=2>) (ラング、シナジー、2012)

出版しない 

31

ミリカンとエーレンハフト論争(1913年)

ノーベル賞授受の物理学者ミリカンは電荷eの最初の測定結果を発表


エーレンハフトは微小な電荷をもつ副電子が存在するという自分の主張を裏付けると指摘

ミリカンはエーレンハフトに反駁のため、電子に単一の電荷がふさわしいと、より正確な結果の論文を発表

ハーバード大学の歴史学者ホルトンは、1913年のミリカンの実験ノートに、発表データとの差異をみつけた

発表された58の観測は、実際は全部で140の観測から選ばれた最もよいデータであった

(ブロード、講談社、2014)

選択的報告 

32

ゲルシンガー事件(1999年)

ゲルシンガー少年(18歳)は、特殊な酵素欠損症のため、ペンシルベニア大学遺伝子治療機構の臨床試験に参加


その際に使用されたウイルスにより多臓器不全を生じて死亡調査により臨床試験での倫理違反が露見

- 少年の健康状態は良くなく、試験の対象として不適格
- 説明同意文章に重篤な有害事象の記載が無かった
- 研究組織は、リスクと益の情報提示の義務を果たさず、不適切な患者を臨床試験へ参加するように誘導した

中心であったウィルソン医師は、研究スポンサー企業の設立者・株所有者であり、個人的にも所属大学も膨大な株式交換利益を有していた

(郷間徹、京府医大誌、2011)

(<http://www.washingtonpost.com/wp-srv/WPcap/1999-11/21/101r-112199-idx.html>)

COI・参加者保護 

33

シェーン(ベル研究所)事件(1998-2002年)


ベル研究所の若手研究者シェーンは、有機物結晶を使った超伝導の発見、電子素子の開発など、重要な成果を次々にあげ、短期間にサイエンス、ネイチャーなどに多くの論文を発表した

時には平均2週間に1本の論文発表をしていた

天才的な物理学者として、ノーベル賞を受賞すると噂されていた

「二つの論文のグラフを比較してほしい」という匿名電話から曲線の細部まで酷似した二つの異なる実験データや、追試による再現性の不可能性などから不正行為が発覚した

(ブロード、講談社、2014)

捏造・改ざん 

34


コーナック事件(2002年)

ニューヨークのストラットンVAメディカルセンター腫瘍学プログラム研究調査役のポール・コーナックは1999年から2002年まで医師になりすまし、患者のデータを改ざんして適格基準から外れた患者を研究に登録

彼は78歳の患者の血液生化学検査を改ざんして、その患者の肝・腎機能の異常を隠した

患者は治験薬投与後死亡し、コーナックは過失致死で刑事罰を受けた

(ラング、シナジー、2012)

参加者保護・改ざん 

35

お話する予定

1. 京都大学の研究公正の考え方
2. 研究不正として何が問題になるのか？
 - 1) 参加者(弱者)(Research participants)保護
 - 2) 科学的な不正行為(Scientific misconduct)
 - 3) 出版の倫理(Publication ethics)
 - 4) 利益相反(Conflict of Interest: COI)
 - 5) 復習問題:何が問題なのか？
3. 「私はどうすればいいのか?」: 事例に学ぶ
4. 京都大学の取り組み

36

グループワーク課題

私は、東京の大学医学部准教授の山田先生(仮称)と久しぶりに会うことになりました。先生方に会う時は、いつも最近の文献を読んでいきます。

フムフム、こんな領域外にも発表していらっしゃるんだ…。

久しぶりだけど、この頃どんな仕事をなさっているのかな？

…エ、エッ？ この数字、小数点以下3位まで同じ。引用が無い。共同研究者でも、…ない。

それは、私が台北の学会でポスター発表した数字でした。(手先が冷たくなりました。)

37

「あなたが私の立場であったら、どうしますか？」

- 具体的に話し合ってください。
- 発表者を決めてください。
- 1グループ3分で発表してください。
- 話し合う時間は、_____までです。

38

気を取り直して、臨床の指導医に相談する。「学会で、ポスターのハンドアウトなんか、あなたが配るからいけない！」と叱られた。私が悪かったのか…。

指導教官は入院中。

研究科長に相談する。「…、確かに、あなたの研究結果ですね。でも、私はどうしたらよいのかわかりません」と、悲しそうな顔で言われた。

(悲しくて、元気がでない)

京都のN先生に連絡しなくてはならないことがある。とりあえず連絡。

メールに思わず「愚痴ですが、こういうことがあって、元気ができません」と個人的な話を書いてしまった。

N先生から直ぐに返信。「M先生、N@京都大学医学研究科です。至急、論文とハンドアウトをファックスで送ってください。宜しくお願い致します。」

39

ファックス送信。

折り返しN先生からのメール着信。長いメール。

「この数字は、確かにポスターハンドアウトのものです。」

対応策は優先順位付で具体的に4つ。

約束してあった山田先生のアポは、取り消し。

私から直接ではなく、指導教官(入院中なので、

研究科長)から、雑誌の編集長宛に

「お問い合わせの手紙」を出す。あくまでも、

事実を併記したお問い合わせである。

結果: 4か月後、雑誌の奥付に、小さく、数字がM調査の結果であると訂正記事掲載。



40

お話する予定

1. 京都大学の研究公正の考え方
2. 研究不正として何が問題になるのか？
 - 1) 参加者(弱者)(Research participants)保護
 - 2) 科学的な不正行為(Scientific misconduct)
 - 3) 出版の倫理(Publication ethics)
 - 4) 利益相反(Conflict of Interest: COI)
 - 5) 復習問題:何が問題なのか？
3. 「私はどうすればいいのか?」:事例に学ぶ
4. 京都大学の取り組み

41

京都大学の取り組み

医学部、医学研究科

年に1回、臨床研究講習会受講

講習を受けないと医の倫理委員会への

申請ができない(eラーニングあり)

対象は、倫理委員会へ申請可能な教員に

限られる

42

京都大学における公正な研究活動の推進等 に関する規程 (平成27年3月)

この規程は以下のとおり改正する。

京都大学における公正な研究活動の推進等に関する規程

(目的)
第1条 この規程は、京都大学（以下「本学」という。）にこれら各機関等からの委託研究
活動等を行うこととし、研究活動の公正な実施を図り、公正な研究活動の推進を図る
こととする。

(定義)
第2条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関、教職員、学生等が、本学に
一任された研究活動を行うことを指す。

第3条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第4条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第5条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第6条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第7条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第8条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第9条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第10条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第11条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第12条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第13条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第14条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第15条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第16条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第17条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第18条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第19条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第20条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第21条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第22条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第23条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第24条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第25条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第26条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第27条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第28条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第29条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第30条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第31条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第32条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第33条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第34条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第35条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第36条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第37条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第38条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第39条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第40条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第41条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第42条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第43条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第44条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第45条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第46条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第47条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第48条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第49条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第50条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第51条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第52条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第53条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第54条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第55条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第56条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第57条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第58条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第59条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第60条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第61条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第62条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第63条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第64条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第65条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第66条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第67条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第68条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第69条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第70条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第71条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第72条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第73条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第74条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第75条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第76条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第77条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第78条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第79条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第80条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第81条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第82条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第83条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第84条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第85条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第86条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第87条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第88条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第89条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第90条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第91条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第92条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第93条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第94条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第95条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第96条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第97条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第98条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第99条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

第100条 この規程において「研究活動」とは、本学の機関に属する研究活動（以下「研究活
動」という。）を指す。

(http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/organization/other/revision/documents/h26/t59-26-2.pdf)

(受付窓口)

第9条 本学における研究活動上の不正行為に関する通報及
び通報に関する相談(通報までに至らない段階の相談をいう。
以下「通報等」という。)に対応するため、研究国際部研究推
進課及び各部局に受付窓口を置く。

(通報等の方法)

第11条 通報は、原則として書面(ファックス及び電子メールを含む。以下同じ。)を
受付窓口へ提出又は送付して行うものとする。

2 前項の書面は、原則として署名によるものとし、次の各号に掲げる事項を明
示しなければならない。

(1) 研究活動上の不正行為を行ったとする教職員等の氏名又はグループ等の名
称

(2) 研究活動上の不正行為の具体的内容

(3) 研究活動上の不正行為の内容を不正とする科学的合理的理由

3 受付窓口は、前項各号の内容の一部又は全部に不備があるときは、当該書
面の補正を指示することがある。

(http://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/kitei/reiki_honbun/w002RG00001165.html)

研究公正・倫理は、研究の過程全体：研究
立案、計画、実施、公表の全てに関わります
常に「自分の問題」として、研究公正・倫理
を意識してください

京都大学の研究者として、
「志の高い」研究を!

「志の高い」研究の
仕組み作り

研究不正
の防止

謝辞

Elizabeth Wager氏 (Committee On Publication Ethics, COPEの前Chair) には2015年1月
名古屋にて、全学共通(あらゆる専門分野横断)資料作成という観点から、具体的な示
唆を頂きました

参考・引用文献一覧

- ・京都大学、(アクセス2015.3.9)
http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/organization/other/revision/documents/h26/t59-26-2.pdf
http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/events_news/office/kenkyukokusai/events/2014/140714_1.html
http://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/kitei/reiki_honbun/w002RG00001171.html
- ・日本科学術会議、学術と社会常置委員会報告 科学における不正行為とその防止について、改訂版、2013
- ・日本科学術会議、臨床研究にかかる利益相反(COI)マネジメントの意義と透明性確保について、2013
- ・文部科学省・厚生労働省、人を対象とする医学研究に関する倫理指針、2014
- ・ICMJE, Recommendations for the conduct, reporting, editing, and publication of scholarly work in medical journals, 2014
- ・W. フロード/N. ウェイド、牧野賢治訳、背信の科学者たち 論文捏造はなぜ繰り返されるのか? 講談社、2014
- ・T. ラング、宮崎貴久子・中山健夫監訳、トムラングの医学論文執筆・出版・発表実践ガイド、シナジー、2012
- ・細間敬、医のプロフェッショナリズム：企業－医師関係 京府医大誌 2011;120(6):411-8
- ・科学倫理検討委員会、科学を志す人びとへ 不正を起さないために、化学同人、2007
- ・藤本温編著、技術者倫理の世界第3版、森北出版、2013
- ・山崎茂明、科学者の発表倫理、丸善出版、2013
- ・米國科学アカデミー、池内了訳、科学者をめざす君たちへ第3版、化学同人、2010
- ・山崎茂明、ハブリッシュ・オア・ベリッシュ 科学者の発表倫理、みすず書房、2007

Uploaded March , 2015

Research Integrity and Ethics Common to the Graduate Schools of Kyoto University

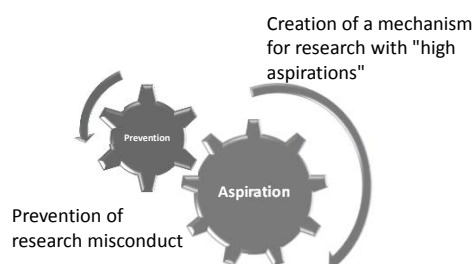
Subcommittee for Research Integrity Education
 Introduced by Kikuko Miyazaki and Takeo Nakayama
 Graduate School of Medicine, Department of Health Informatics, Kyoto University School of Public Health

Topics to be Discussed

1. The concept of research integrity at Kyoto University
2. What are misconduct issues in research?
 - 1) The protection of research participants (the vulnerable)
 - 2) Scientific misconduct
 - 3) Publication ethics
 - 4) Conflict of Interest: COI
 - 5) Review questions: What is the problem?
3. "What should I do?": Learning from case studies
4. Initiatives of Kyoto University

2

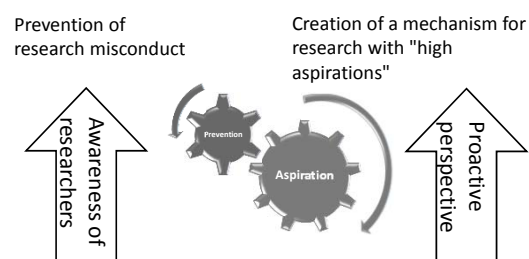
The concept of research integrity at Kyoto University



http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/events_news/office/kenkyukokusai/events/2014/140714_1.html

3

The concept of research integrity at Kyoto University



http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/events_news/office/kenkyukokusai/events/2014/140714_1.html

4

The concept of research integrity at Kyoto University

Beyond the prevention of research misconduct
 - Considering the creation of a mechanism for research with "high aspirations" -

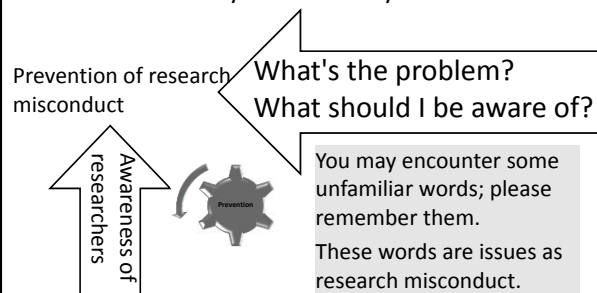
The awareness of individual researchers is required to help prevent so-called "research misconduct" which includes the fabrication, falsification and plagiarism of research papers by researchers.

It is necessary to "create a mechanism" so that research misconduct does not occur. To make this mechanism meaningful, it is necessary to go beyond the passive perspective of simply preventing misconduct; a proactive perspective of aiming for research with "high aspirations" is essential.

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/events_news/office/kenkyukokusai/events/2014/140714_1.html

5

The concept of research integrity at Kyoto University



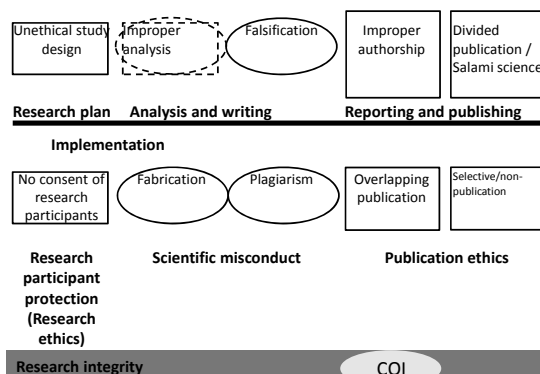
6

Topics to be Discussed

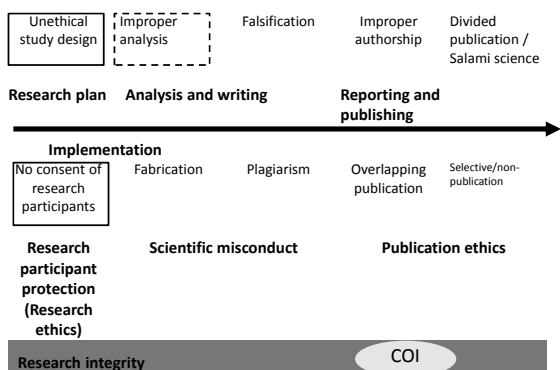
1. The concept of research integrity at Kyoto University
2. What are misconduct issues in research?
 - 1) The protection of research participants (the vulnerable)
 - 2) Scientific misconduct
 - 3) Publication ethics
 - 4) Conflict of Interest
 - 5) Review questions: What is the problem?
3. "What should I do?": Learning from case studies
4. Initiatives of Kyoto University

7

What are misconduct issues in research?



What are misconduct issues in research?



Research participant protection (Research ethics)

Obtaining consent
 OECD (Organisation for Economic Co-operation and Development: 8 principles (1980)
 ⇒ Act on the Protection of Personal Information (2005)

Research participant protection
 Science Council of Japan (2013)

Scientists shall respect the dignity and rights of individuals who cooperate in their research, and shall safeguard and give proper consideration to their welfare. They shall also treat animals and other research subjects with all due care and respect.

Declaration of Helsinki (1964 World Medical Association, revised by the 64th WMA General Assembly in Fortaleza, Brazil) : Ethical principles for medical research involving human subjects

The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology / Ministry of Health, Labour and Welfare: Ethical guidelines on medical research involving human subjects (2015)

(<http://www.scj.go.jp/ja/scj/kihan/index.html>)
 (http://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n1443_01.pdf)

10

Research participant protection (Research ethics)

<Measures>

Research participant protection

Submit the research plan to the ethics committee and obtain its approval

← Have a third party read over the research plan

Analysis method

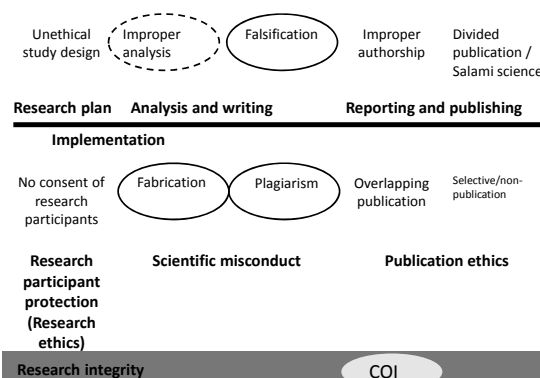
Clarify the analysis plan in the research plan

Create a written analysis plan before embarking on analysis following data collection in accordance with the study design (observational study, etc.)

Describe the analytical procedure in the study notes

11

What are misconduct issues in research?



12

Scientific Misconduct

F F P

Fabrication
Creating data and research results that do not exist

Falsification
Altering or forging data, images or research results

Plagiarism
Using the ideas, data and research results of others without the appropriate citation

13

Warning! In order not to be considered as falsification

Trimming of image data
Editing of digital images
<Measures>
Submit the original image

Data dredging
Findings from secondary analysis
<Measures>
Clarify the findings as exploratory results from secondary analysis.

14

Warning! In order not to be considered as plagiarism

Patch writing
The use of good English expressions by non-native English authors to make their sentences look better.
⇒ This is considered plagiarism in the West (detected by text checking software)
<Measures>
1. Put quotation marks if using a word for word quote
2. Cite the reference if rewriting in your own words

15

Warning! In order not to be considered as plagiarism

Self-plagiarism
Re-submitting a work of yours that has been published previously without disclosing this fact to the new editors and readers is considered potential duplicate publication and potential copyright infringement
⇒ Experts repeat their writings
<Measures>
Inform the new editor of the original publication just in case, and cite it as a reference

16

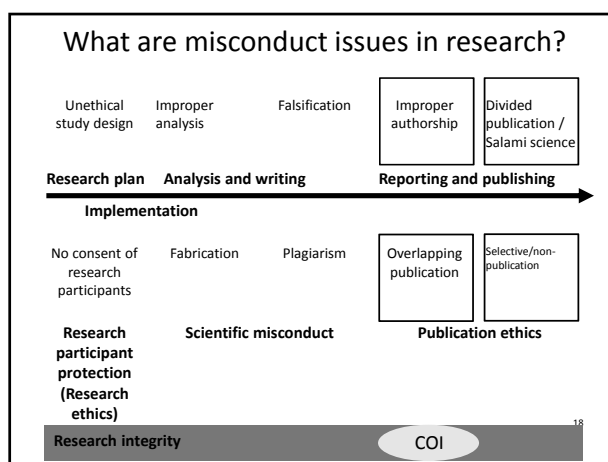
Determination of FFP is difficult

Did the author inadvertently forget to make a citation (honest error)? Was it deliberate? Cases are often not spelled out in black and white.

Fraud is nothing for you to be concerned with? You can't assume that you won't be suddenly suspected of fraud one day.

<Measures>
1. First, consult with a trusted faculty member or friend
2. Create research notes to detail the research process
Research notes prove that the data is yours, and also serve as a means of defense should you be suspected of fraud

17



Publication ethics

International Committee of Medical Journal Editors (ICMJE) recommendations (2014)

The ICMJE recommends that authorship be based on the following 4 criteria

1. Substantial contributions to the conception or design of the work; or the acquisition, analysis, or interpretation of data for the work; AND
2. Drafting the work or revising it critically for important intellectual content; AND
3. Final approval of the version to be published; AND
4. Agreement to be accountable for all aspects of the work in ensuring that questions related to the accuracy or integrity of any part of the work are appropriately investigated and resolved.

19

Publication ethics

Overlapping publication

1. Duplicate submission

The same paper must not be submitted to multiple journals at the same time.

2. Duplicate publication

Papers that largely overlap with published papers (but perhaps have some added unpublished data, for example) must not be published without a clear reference to previously published papers.

20

Publication ethics

The six conditions under which secondary publication (translations, etc.) is permitted

1. The understanding of the editors of both journals has been obtained
2. The priority of first edition is respected, and arrangements are made for the publication time with both editors
3. The publications have a different readership and language
4. The data and interpretation of the first edition is faithfully reflected
5. A footnote on the title page of the secondary publication indicates that it is a parallel publication, and its bibliographic information as a temporary publication is clarified
6. If published in the MEDLINE journal listing, it is not cited or registered as a translated edition (secondary publication)

21

Publication ethics

Divided publication / Salami science

Dividing the findings that belong to the same database into as many publishable papers as possible without indicating the findings are from the same project

<Measures>

For subgroup analysis of large-scale projects, clarify the project name and the clinical trial registration number

Selective/non-publication (cherry picking)

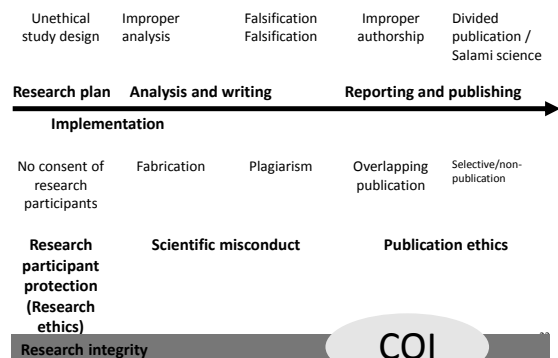
Only focusing on results with statistical significance for the main analysis

<Measures>

Publish the research plan (protocol), clinical trial registration

22

What are misconduct issues in research?



Conflict of Interest (Conflict of interest : COI)

In their research, reviews, evaluations, judgments and other scientific activities, scientists shall pay sufficient heed to the presence of conflicts of interest between individuals and organizations, or between different organizations, and shall properly address problems paying all due attention to the public interest.

(Science Council of Japan - Code of Conduct for Scientists, revised 2013)

A conflict of interest exists when professional judgment concerning a primary interest (such as the validity of research) may be influenced by a secondary interest (such as financial gain)

(ICMJE, recommendations, 2014) (<http://www.icmje.org/icmje-recommendations.pdf>)

24

Conflict of Interest (COI)

COI does not only include financial interests
→ Reviewers must not use knowledge obtained from reviewed papers prior to their publication for their own benefit

COI does not amount to misconduct on its own
⇒ Proper disclosure

COI reporting and ensuring transparency → ensuring the reliability of the study

25

Kyoto University Conflict of Interest Management Regulations

Instruction No. 79 issued on January 21, 2014

A "Conflict of Interest" is described as follows:

a) The inhibition of the university's social responsibility due to prioritizing the benefit obtained from companies, etc. along with the university's involvement in joint ventures with these companies, etc. (hereinafter, "Industry, government and academia collaborative activities")

b) The inhibition of a faculty member's performance of his/her proper duties in the university due to prioritizing the benefit obtained by him/herself or by companies, etc. as a result of receiving benefits from companies, etc. such as implementation fees, part-time remuneration and unlisted stocks along with his/her involvement in industry, government and academia collaborative activities.

c) The inhibition of a faculty member's performance of his/her proper duties in the university due to prioritizing the work performance responsibilities owed to the companies, etc. for which he/she performs part-time work.

(http://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/kitei/reiki_honbun/aw002RG00001171.html)

26

Code of Conduct for Scientists

Science Council of Japan, revised 2013

(Research Activities)

Scientists shall act with integrity according to the spirit of this Code of Conduct in drafting, planning, applying for, implementing, and reporting their own research. By reporting their research results through such means as papers, scientists shall take responsibility as well as obtaining recognition for their achievements in accordance with the role that they played. Scientists shall ensure that research and survey data are recorded, stored and rigorously handled, and not only refrain themselves from any misconduct such as fabrication, falsification or plagiarism, but also refrain from aiding or abetting such misconduct.

27

Review questions: What is the problem?

28

Summerlin case (1974)

In 1974, William Summerlin, working in the immunology department of the Sloan-Kettering Institute for Cancer Research, reported that he could transplant tissue from genetically unrelated animals without rejection.

Summerlin demonstrated his claims by showing white mice that had black patches of "transplanted skin" on their backs. However, it was revealed that these "transplanted patches" were actually drawn on the skin of the mice with a felt-tipped marker.

(Lang, Synergy, 2012)

Fabrication 

29

Alsabti case (1977)

Elias Alsabti worked in various U.S. research institutions, and reworked articles from lesser known scientific journals into entries that he submitted for publication elsewhere.

His aim was to get ahead by accumulating a long list of publications in order to have a decorated scientific career similarly to many other scientists.

His plagiarism continued for three years.

However, his hasty approach of carelessly stealing papers word for word finally led to his downfall. Perhaps if he had been more careful, his plagiarism would never have been detected.

Plagiarism 

(Broad, Kodansha, 2014)

30

Synthroid case (1997)

The manufacturer of Synthroid, a thyroid hormone formulation for hypothyroidism patients, supported a study to favorably compare Synthroid with its generic counterparts. However, the results of the study were not as favorable as expected.

To prevent the publication of the results, the manufacturer relied on a clause in its agreement with the researcher requiring the permission of the company to publish the results. The researcher's employer, the University of California, ordered the researcher to withdraw the paper, fearing expensive and protracted litigation.

The manufacturer made \$800 million from Synthroid in the next 6 years before the paper was eventually published.

(<http://www.nytimes.com/1997/04/16/us/drug-firm-releating-allows-unflattering-study-to-appear.html?pagewanted=2>) (Lang, Synergy, 2012)

Non-publication



31

The Millikan-Ehrenhaft controversy (1913)

Millikan, a Nobel Prize winning physicist, first measured the elementary electric charge, that of the electron.

Ehrenhaft, on the other hand, pointed out that his statement that an auxiliary electron with minute electrical charge exists has been backed up by these results.

To rebut Ehrenhaft, and prove that single electrical charge is more suitable, Millikan published more accurate results.

Gerald Holton, a Harvard University historian, later discovered discrepancies between the laboratory notebook of Millikan and the published data.

In Millikan's laboratory notes there were measurements for 140 droplets, whereas the published results in 1913 state emphatically that there were measurements for 58 droplets.

(Broad, Kodansha, 2014)

Selective publishing



32

Gelsinger case (1999)

Jesse Gelsinger, an 18 year-old boy who suffered from ornithine transcarbamylase deficiency, joined a clinical trial on gene therapy run by the University of Pennsylvania.

He died of multiple organ failure resulting from the use of the viral vector used to transport the gene into his cells.

An investigation concluded that the scientists involved in the trial broke several rules of conduct:

- Gelsinger's health condition was not good, and that should have led to his exclusion from the trial;
- There was no mention of serious adverse events in the consent form;
- The research organization failed to perform its obligation to present information such as the risks and rewards from participation in the trial, and induced patients to join the trial inappropriately

The co-investigator Dr. M. Wilson, was a founder and shareholder of the research sponsor, and both he and the university made huge stock profits.

(Iwao Goma, Journal of Kyoto Prefectural University of Medicine, 2011)

COI / research participant protection



(<http://www.washingtonpost.com/wp-srv/WPcap/1999-11/21/101r-112199-idx.html>)

33

Schön scandal (Bell Labs) (1998-2002)

Schön, a young researcher at Bell Labs, briefly rose to prominence after a series of apparent breakthroughs, namely, the discovery of superconductivity using organic crystals and the development of electronic elements. Within a short period of time, he published many papers in the journals *Science* and *Nature*, etc.

At times, he was listed as an author on an average of one newly published research paper every two weeks.

It was even rumored he would be awarded a Nobel Prize as a genius physicist.

An anonymous phone call to "compare the graphs in two of Schön's papers" led to the discovery of misconduct from the fact that there were two sets of experimental data which closely resembled one another, down to the curve, and that could not be reproduced with additional tests.

(Broad, Kodansha, 2014)

Fabrication / falsification



34

Kornak case (2002)

Paul H. Kornak, a Stratton VA Medical Center (New York) oncology program research officer, posed as a doctor from 1999 to 2002 and falsified patient data to allow patients excluded from the eligibility criteria to be registered in studies.

He falsified the blood biochemical examination of a 78-year old patient to hide his abnormal liver and renal function.

The patient died after the administration of the investigational drug, and Kornak was subjected to criminal penalties for accidental homicide.

(Lang, Synergy, 2012)

Research participant protection / falsification



35

Topics to be Discussed

1. The concept of research integrity at Kyoto University
2. What are misconduct issues in research?
 - 1) The protection of research participants (the vulnerable)
 - 2) Scientific misconduct
 - 3) Publication ethics
 - 4) Conflict of Interest
 - 5) Review questions: What is the problem?
3. "What should I do?": Learning from case studies
4. Initiatives of Kyoto University

36

Group Work Project

It was arranged that I was going to meet Prof. Yamada (a tentative name) after an extended period of time. He was an associate professor of a medical university in Tokyo.

I make it a practice to read their recent research articles before I meet people like professors, doctors, and so on.

Ho-hum, it's a bit surprising he published on subjects outside his field of expertise as well ...

I haven't heard anything about his study for a long time, but what is he working on at present?

Huh?... What? This figure... totally the same, even three digits after the decimal point. No quotation... Is he a co-researcher?... No!

That was the very figure I had presented at a poster session of an academic conference held in Taipei.
(I felt as if my hands holding the paper have frozen with the shock)

37

"If you were in my position, what would you do?"

- Discuss what you would specifically do.
- Designate the one who presents the thought of your group.
- Your group presentation should be done within 3 minutes.
- The group discussion can be made until _____.

38

I recollected myself, and I decided to consult with a clinical medical advisor. He told me off and said,

"It was your mistake to distribute the handouts of the poster". So I was the one who was wrong...

My supervisor was hospitalized at that time.

So, I talked to the Dean of the graduate school. "... Without doubt, they are your research findings.

But I don't know what to do", he said with a sad face.

(I felt quite sad and disheartened)

I had something to talk about with Prof. N. in Kyoto. So, I got in touch with him.

I blurted out such a personal matter in the email, saying, "I am so discouraged because this and that happened to me".

Immediately after that, I received a reply email from Prof. N, saying, "Prof. M, I am N at the graduate school of medicine at Kyoto University.

Please fax your paper and the handout immediately.
Thank you very much".

39

And then, I sent the fax.

Prof. N sent the return email, which I received. That was a long mail.

"This figure was indeed taken out of the poster handout," he said.

There were four specific measures that were prioritized.

The appointment to meet Prof. Yamada was canceled.

Not I, but the supervisor sent "an inquiry letter" (In fact, the Dean of the graduate school was the one who wrote the letter because the supervisor was hospitalized at that time) to the chief editor of the journal. It was certainly an inquiry with the fact laid down.

Result: Four months later, a small correction notice was posted in a colophon of the journal, saying that the figure was quoted from the research findings from survey M.



40

Topics to be Discussed

1. The concept of research integrity at Kyoto University
2. What are misconduct issues in research?
 - 1) Protection of research participants (vulnerable ones)
 - 2) Scientific misconduct
 - 3) Publication ethics
 - 4) Conflict of Interest: (COI)
 - 5) Review Question: What is the problem?
3. "What should I do?" : Learning from case studies
4. Initiatives of Kyoto University

41

Initiatives of Kyoto University

Faculty of Medicine, Graduate School of Medicine

Those who do not attend a lecture of the clinical research seminar that is held once a year will not be allowed to submit their research proposal to the medical ethics committee (e-learning is also available). The seminar targets only the teaching staff who are in a position to submit the proposal to the committee.

42

Rules regarding the promotion of research integrity at Kyoto University (As of March 1, 2015)

京都大学における研究活動の公正性の確保に関する規程(平成26年3月1日現在)

京都大学における研究活動の公正性の確保に関する規程(平成26年3月1日現在)

- 京都大学における研究活動の公正性の確保に関する規程
- (目的)
- 第1条 この規程は、研究活動(以下「研究」という。)の公正性の確保及び研究活動の発展を促進することを目的とし、研究活動の公正性の確保に関する事項を定めることとする。
- 第2条 この規程において「研究員」とは、本学が所属、勤務、学生等で、本学において研究活動を行う者をいう。
- 第3条 この規程において「研究活動」とは、学術研究、教育研究、学術普及、学術情報提供、学術的サービス、学術的支援等(以下「学術活動」という。)を指す。
- 第4条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第5条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第6条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第7条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第8条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第9条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第10条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第11条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第12条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第13条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第14条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第15条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第16条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第17条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第18条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第19条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。
- 第20条 この規程において「研究活動の公正性の確保」とは、本学が所属する研究員が、研究活動の公正性の確保を目的として行うべき行為を指す。

(<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/organization/other/revision/documents/h26/t59-26-2.pdf>)

(Reception Desk)

Article 9 In response to reports or consultations about alleged misconduct in research activities ("consultation" defined here is the one with an uncertainty about the relevant fact of the misconduct. Hereinafter, "report (ing) and the like"), the reception desk shall be set up at Research Promotion Department and each bureau of the International Research Division.

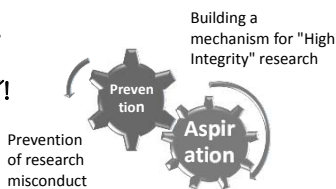
(Methods of Reporting, and the like)

Article 11 The report shall be, in principle, made in writing (including a fax and an email. Hereinafter the same shall apply) and submitted or sent to the reception desk. The writer referred in the preceding paragraph shall, in principle, indicate the name of the reporter and the matters listed in the following items.

- (1) The name (s) of the teaching staff or the group, and the like who allegedly committed misconduct in a research activity.
 - (2) Detailed content of the misconduct in the research activity
 - (3) A scientific and rational reason (s) that proves the act in the research activity to be fraudulent
3. In the case of incomplete information stated in each item under the preceding paragraph, the reception desk shall give the reporter instructions to correct the concerned writing. (http://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/kitei/reiki_honbun/w002RG00001165.html)

Research integrity and ethics affect the whole process of the research, such as design, planning, implementation and publishing. Keep constant awareness of research integrity/ethics as "your primary concern".

As a researcher of Kyoto University, conduct research with "High Integrity"!



Acknowledgments

In Nagoya in January, 2015, Dr. Elizabeth Wager (Ex-chairperson of the Committee on Publication Ethics, COPE) gave us specific advice from the viewpoint of creating materials for all faculties (across all disciplines).

References

- *Kyoto University (Access:2015.3.9)
<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/organization/other/revision/documents/h26/t59-26-2.pdf>
http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/events_news/office/kenkyuokokusai/events/2014/140714_1.html
http://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/kitei/reiki_honbun/w002RG00001171.html
- *Scientific Misconduct and its Prevention -Revised, The report of the Committee on Science and Society, Science Council of Japan, 2013
- *"The Significance of Managing Conflict of Interest (COI) in the Clinical Research and Ensuring Transparency", Science Council of Japan, 2013
- *"Ethical Guidelines for Medical Research Involving Humans", Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Japan - Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan, 2014
- *ICMJE, Recommendations for the conduct, reporting, editing, and publication of scholarly work in medical journals, 2014
- *W. Broad/N. Wade, translated by Kenji Makino, "Betrayal of the Truth: Fraud and Deceit in the Halls of Science," Kodansha, 2014
- * T. Lang, translation supervised by Kikuko Miyazaki+Takeo Nakayama, "How to Write, Publish, and Present in the Health Sciences: a Guide for Clinicians and Laboratory Researchers," Synergy, 2012
- * Wao Gehma, "Medical professionalism and relationships among pharmaceutical industry and physicians", Journal of Kyoto Prefectural University of Medicine 2011;120(6):411-8.
- * "To Aspiring Scientists - Not to fall into misconduct", edited by Scientific Ethics Reviewing Committee, Kagakudojin, 2007
- * Tsunoru Fujimoto, "The World of Engineering Ethics - The 3rd edition", Morikita Publishing Co., Ltd. 2013
- * Shigeaki Yamazaki, "Publishing Ethics for Scientists", Manaze Publishing Co., Ltd. 2013
- * National Academy of Sciences, translated by Ryo Ikeuchi, "On Being a Scientist - The 3rd Edition", Kagakudojin, 2010
- * Shigeaki Yamazaki, "Publish or Perish: Publishing Ethics for Scientists", Misuzu Shobo, 2007

全ての皆さまへ

- ◆ 学術研究活動における行動規範
Code of Conduct for Academic Research
- ◆ 学術研究活動における不正行為とは？
What Constitutes Misconduct in Academic Research?
- ◆ 研究公正推進体制
Promoting Research Integrity
- ◆ 通報窓口
Research Integrity Hotlines
- ◆ 研究公正研修について
Research Integrity Training
- ◆ 研究公正のためのオンラインツールについて
Research Integrity Online Tool

京都大学は「研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う」ことを研究における基本理念としています。2014年、文部科学省は「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成26年8月26日、文部科学大臣決定）を制定しました。この機を捉え、京都大学で学術研究活動に携わる全ての皆さまへ、研究公正に関して改めてご留意いただくため本リーフレットを作成しました。

学術研究活動における行動規範

日本学術会議は、すべての学術分野に共通する科学者の行動規範について声明を出しており（「科学者の行動規範－改訂版－」（平成25年））、その中で、科学及び科学者の責務について以下のように述べています。

●科学とは

科学は、合理と実証を旨として営々と築かれる知識の体系であり、人類が共有するかけがえのない資産でもある。また、科学研究は、人類が未踏の領域に果敢に挑戦して新たな知識を生み出す行為といえる。

一方、科学と科学研究は社会と共に、そして社会のためにある。したがって、科学の自由と科学者の主體的な判断に基づく研究活動は、社会からの信頼と付託を前提として初めて社会的認知を得る。

●科学者の責務

【科学者の基本的責任】

科学者は、自ら生み出す専門知識や技術の質を担保する責任を有し、さらに自らの専門知識、技術、経験を活かして、人類の健康と福祉、社会の安全と安寧、地球環境の持続性に貢献するという責任を有する。

【科学者の姿勢】

科学者は、常に正直、誠実に判断、行動し、自らの専門知識・能力・技芸の維持向上に努め、科学研究によって生み出される知の正確さや正当性を科学的に示す最善の努力を払う。

●京都大学の教職員像【抜粋】

京都大学では教職員像を定め、全ての教職員に高い倫理性を求めています。

▶ 京都大学の教職員は、基本理念の下に、その将来像の実現に向けて、教育、研究、支援業務、大学・部局の運営のそれぞれにおいて自らの使命を自覚し、その職責の遂行に全力を尽くす。

▶ 教職員は、最善の努力を傾けて、教育・研究の双方において能う限りの高い水準を目指す。学問の自由は、これを遂行するためのものとも基本的な要件であり、社会規範や倫理に十分な配慮を払いつつ、教育・研究のすべての場において尊重される。

▶ 教育は、学術・文化の継承と個々の学生の能力開発・人格育成の営みであり、その実施において教職員は、性、民族、宗教などによる差別をしてはならない。研究は、学術・文化の発展と人理共通の知的財産の蓄積に資すべき営みであり、その推進において教職員は、高い倫理性と清廉性を保持しなければならない。

学術研究活動における不正行為とは？

文部科学省のガイドラインでは、「捏造」、「改ざん」及び「盗用」を特定不正行為と定義しています。京都大学でもこれらを「研究活動上の不正行為」と定義しています。

捏造 (Fabrication)	存在しないデータ、研究結果等を作成すること。 例) 期待した実験結果が得られなかったので、画像を切り貼りして架空の画像を作り、論文上で発表した。
改ざん (Falsification)	研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を、真正でないものに加工すること。 例) 複数回の実験データのうち、都合の悪いデータを削除して、推論に合うように加工したグラフを作成して発表した。
盗用 (Plagiarism)	他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を、当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用すること。 例) インターネットで見つけた他人の論文の一部をコピーして、出所を明らかにせず、自分の論文にそのまま貼り付けて発表した。

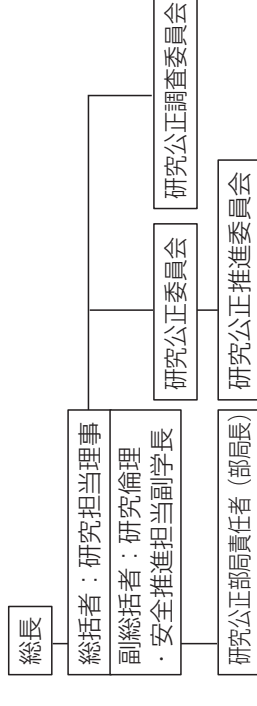
▶ 上記の他に、二重投稿や不適切なオナーシップ等が、研究者倫理に反する行為として、多くの学術誌の投稿規程等において禁止されています。

▶ 生データや実験ノート等の研究の記録や実験試料等を一定期間保存し、適切に管理、開示することは、不正行為の抑止や、研究者が万一反正行為の疑いを受けた場合にその自己防衛に資することのみならず、研究成果を広く科学コミュニティの間で共有する上でも有用です。京都大学では、特段の事情がある場合を除き、当該論文の発表後少なくとも10年間研究の記録を保存することとしています。部局内規等のルールや、研究上の監督者・指導者が示す研究データ保存計画に従って適切に保存してください。

研究公正推進体制

- 京都大学における公正な研究活動の推進等に関する規程
(H27.2.24制定 H27.3.31・H28.3.31・H30.3.28改正)
http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/ethic/research_guide

●組織体制



各委員会及び責任者のミッションは以下の通りです。

【研究公正委員会】

- ▶ 公正な研究活動の推進等に係る方策の策定およびその改善に関すること
- ▶ 関係部局と協力し、不正の発生要因に対する改善策を講じること等

【研究公正推進委員会】

- ▶ 公正な研究活動の推進等の具体的な企画立案及びその実施
- ▶ 研究公正推進方策（アクションプラン）の検討

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/ethic/research_guide

【研究公正調査委員会】

- ▶ 通報等への対応
- ▶ 研究公正部局責任者
- ▶ 部局における公正な研究活動の総括
- ▶ 部局の研究公正教育・体制整備

通報窓口

研究不正を方が一見かけた場合は各部局及び本部通報受付窓口へ！

【各部局窓口】

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/ethic/research_guide/madoguchi

【本部窓口（京都大学研究推進部研究倫理・安全推進室）】

以下の通報受付フォームから送信してください。

<https://u.kyoto-u.jp/wy-t>

京都大学 HP ホーム > 研究・産官学連携 > 研究倫理・生命倫理 > 研究活動指針等 > 研究活動上の不正行為に関する通報、告発等の受付窓口

〒606-8501 京都市左京区言田本町

TEL: 075-753-2498 FAX: 075-753-2498

E-mail: kenkyu-fusei@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※通報は書面・顕名を原則として受付。相談は電話でも可。

※フォームはセキュリティ上の問題等から、ファイル等の添付ができません。資料等を送付する場合には、郵便もしくはFAX等の他の方法でお送りください。

▶ 不正行為が認められた場合、学内処分（懲戒、減給、厳重注意等の指導監督措置等）および配分機関からの処分の対象となります。なお、その他調査体制等、詳細は以下のURLより規程をご確認ください。

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/ethic/research_guide

研究公正研修について

教員、研究者および大学院生を主な受講対象者として、研究公正研修を実施しています。

詳しくは、以下のURLよりご確認ください。

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/ethic/research_guide/kensyu

研究公正のためのオンラインツールについて

常勤の研究者を主な対象として、剽窃検知オンラインツール (iThenticate) を導入しています。

詳しくは、以下のURLよりご確認ください。

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/ethic/research_guide/ithenticate

このリーフレットに関する問い合わせ先

京都大学研究推進部研究推進課研究コンプライアンス掛

TEL: 075-753-2603 FAX: 075-753-2042

E-mail: compliance@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

Kyoto University's guiding principle in research is "the creation of knowledge unsurpassed throughout the world, through highly ethical research based on freedom of and autonomy in research." In 2014, the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) established "Guidelines for Dealing with Research Misconduct" (August 26, 2014, MEXT Minister). Kyoto University took that opportunity to create this leaflet regarding research integrity in order to raise awareness among those involved in academic research at the university.

Code of Conduct for Academic Research

The Science Council of Japan has published a statement regarding a code of conduct common to scientists in every field ("Code of Conduct for Scientists," Revised Version, 2013). This statement asserts the following about science and the duties of scientists.

What is science?

Science is a system of knowledge based on the principles of reason and empirical proof that is assiduously built up over time, and constitutes an irreplaceable common asset of all humanity. Scientific research is an act that creates new knowledge by boldly pursuing the challenges of unknown fields.

Science and scientific research exist both with and for society. Therefore, research activities based on scientific freedom and the subjective judgments of scientists only gain social recognition once they are premised upon public trust and the mandate of the people.

The responsibilities of scientists

Basic responsibilities of scientists

Scientists shall recognize that they are responsible for assuring the quality of the specialized knowledge and skills that they themselves create, and for using their expert knowledge, skills and experience to contribute to the health and welfare of humankind, the safety and security of society and the sustainability of the global environment.

Attitude of scientists

Scientists shall always make judgments and act with honesty and integrity, endeavoring to maintain and improve their own expertise, abilities and skills, and shall make the utmost effort to scientifically and objectively demonstrate the accuracy and validity of the knowledge they create through scientific research.

A Model for Faculty and Staff at Kyoto University

Kyoto University has certain ideals for its faculty members, and demands a high level of ethics from them.

- ▶ In accordance with Kyoto University's basic principles, faculty and staff members must be aware of their duties towards education, research, support services, and management of the university, and strive to fulfill their obligations.
- ▶ Faculty and staff members must strive to aim for the highest standard of education and research. Academic freedom is the most basic prerequisite to accomplish this and must be prioritized in educational and research fields, with consideration of social norms and ethics.
- ▶ Education is the transmission of learning and culture, and develops students' abilities and personalities. Faculty and staff members shall not discriminate against students on the basis of gender, race, or religion. Research aims towards the development of learning and culture, and contributes to the accumulation of knowledge. The promotion of research by faculty and staff members must be founded on a strong sense of morality and integrity.

What Constitutes Misconduct in Academic Research?

According to the MEXT guidelines, misconduct is defined as "fabrication," "falsification," or "plagiarism," and Kyoto University also defines these acts as "research misconduct".

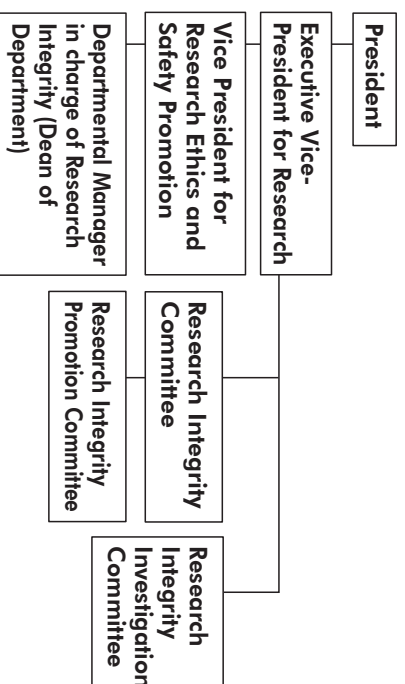
Fabrication	Making up data or research results that do not otherwise exist.
	Example: Creating fake results by cutting and pasting the results of another's thesis into one's own, simply because the expected results were not obtained.
Falsification	Creating false data or research results by altering research materials, equipment, or processes.
	Example: Deleting inconvenient data from multiple experiment results, and publishing a thesis with graphs demonstrating only the data that agrees with the hypothesis.
Plagiarism	Borrowing ideas, analytical methodology, data, research results, papers, or words without permission or appropriate acknowledgement of the original researchers.
	Example: Copying a portion of someone else's work found on the internet, without noting the appropriate source.

- ▶ In addition to the above, duplicate publications, improper authorships, and so forth are also a breach of researcher ethics and are prohibited by rules of submission by many academic journals.
- ▶ Storage of raw data, experiment notes, other research records, materials used in experiments, appropriate managing records, and disclosing records as deemed necessary are all useful not only for preventing misconduct but also for one's self-defense when accused of suspicious activities. It is also useful for information sharing among the broader scientific community. At Kyoto University, research records are maintained for at least 10 years after the presentation of the research results, except for under special circumstances. Faculty and Staff shall preserve research data for the period stipulated by the supervisors in accordance with the data preservation plan.

Promoting Research Integrity

- Promoting Research Integrity Regulation of Kyoto University
(As of March 28, 2018)
http://www.kyoto-u.ac.jp/en/research/ethic/research_guide

The organization for promoting research integrity



Each committee member and responsible party has the following missions:

Research Integrity Committee

- ▶ Formulates policies to promote and improve research integrity
- ▶ Cooperates with related departments, and devises measures to curb factors that potentially lead to misconduct

Research Integrity Promotion Committee

- ▶ Formulates action plans promoting research integrity

Research Integrity Investigation Committee

- ▶ Responds to reports of misconduct

Departmental Research Integrity Officer

- ▶ Promotes principles of research integrity and the orderly conduct of research

Research Integrity Hotlines

- ▶ If you should discover misconduct around you, please report it to the inquiry desks at each department or the university's central administration.

Inquiry desks at each department

http://www.kyoto-u.ac.jp/en/research/ethic/research_guide/hotlines

Inquiry at the university's central administration

Please use the dedicated form in the following URL.

<https://u.kyoto-u.jp/wy-1t>

Research Ethics Safety Promotion Office, Research Promotion Department, Kyoto University

Yoshida-honmachi, Sakyo-ku, Kyoto 606-8501

FAX: 075-753-2498

E-mail: kenkyu-fusei@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

- ▶ If misconduct is found, the researcher will be subject to university penalties (salary cut, reprimand, or other disciplinary action) and the funding organizations' penalties. For more details, please refer to Kyoto University's regulations at the following URL:
http://www.kyoto-u.ac.jp/en/research/ethic/research_guide/

Research Integrity Training

KU conducts Research Integrity Training with faculty and staff, researchers, and graduate students as main applicants.

- For more details, please refer to the following URL:
http://www.kyoto-u.ac.jp/en/research/ethic/research_guide/kensyu

Research Integrity Online Tool

KU has introduced a plagiarism detection online tool "iThenticate" mainly for full-time researchers.

- For more details, please refer to the following URL:
http://www.kyoto-u.ac.jp/ga/research/ethic/research_guide/ithenticate

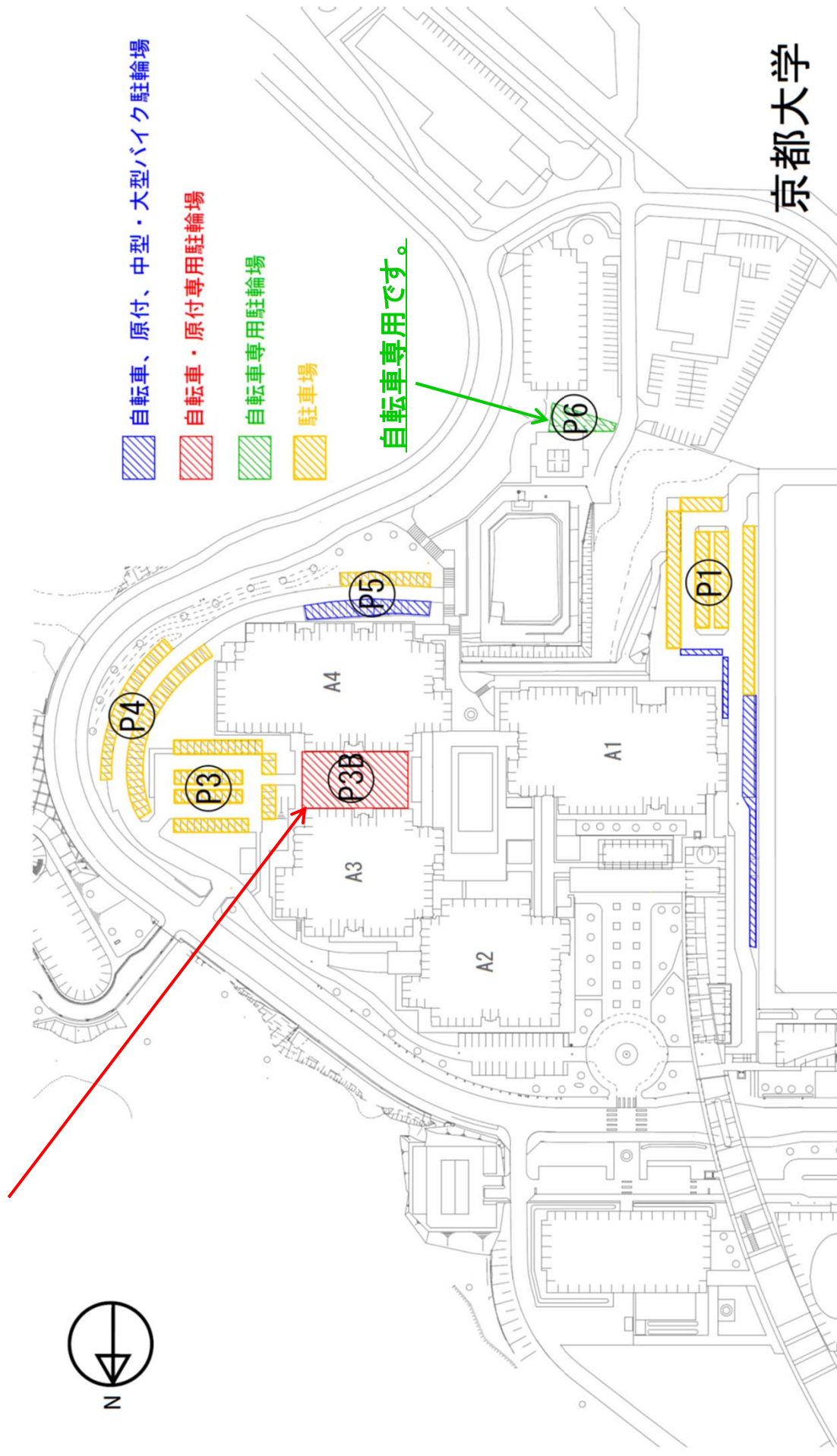
Inquiries regarding this leaflet should be directed to:

Research Promotion Division, Research Promotion Department, Kyoto University
Tel: 075-753-2603 Fax: 075-753-2042
E-mail: compliance@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

桂キャンパスAクラスター 駐輪場・駐車場MAP

利用者は所定の位置に駐輪・駐車ください。ご協力お願いします。

P3B駐輪場は、自転車・原付専用です。駐輪場内は必ずエンジンを切ってください。



School Nurse's Office

桂 保健室

お気軽にご相談ください。



よくわからないけど
調子が悪い。

Recently,
I feel tired...

漠然とした
不安がある。

養護教諭資格を持った専門スタッフが常駐しています。相談者のプライバシーは保護いたします。

The office offers a range of resources for those who might be feeling worried, drained and overwhelmed in daily life. The registered school nurse will be available to listen to you about your work or school life issues and any other related topics. Please be assured that all medical care at School Nurse's Office is kept confidential.

開室場所

桂キャンパス Bクラスター事務管理棟2階
2nd floor, Administration B Cluster

開室時間

月～金曜日 9:00～17:00 (13:00～14:00 休室)

※休日及び年末年始を除く

9:00～17:00, from Monday through Friday (13:00-14:00 closing time)

※excluding holidays and New Year's holiday

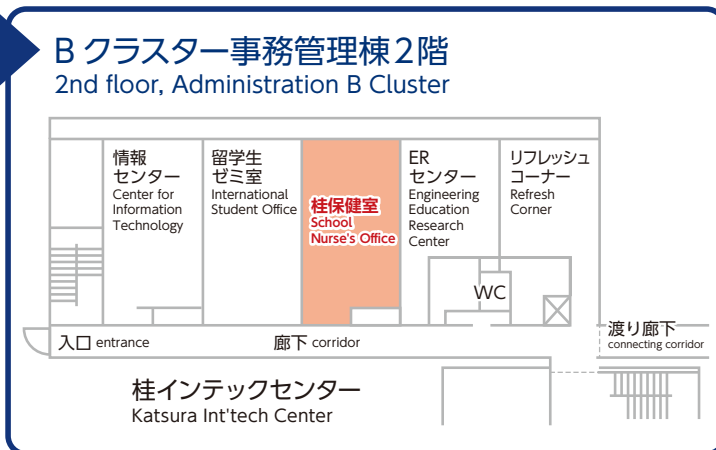
メールアドレス

katsura-noffice@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

(中谷 和子 / NAKAYA, Kazuko)

電話番号

☎ 075-383-2054 ※Excuse me, but please speak in Japanese



京都大学
KYOTO UNIVERSITY



Dear Students

Great Opportunities for Building Global Engineering Skills!

Kyoto University Graduate School of Engineering,
Engineering Education Research Center



The Engineering Education Research Center provides the following courses in English for the Spring semester 2018:

Introduction to Advanced Material Science and Technology /

1.5 credits, 2 credits

Project Management in Engineering / 2 credit

- Learn various project management and team-working topics
- Meet and discuss with managerial industry representatives



Professional Scientific Presentation Exercises / 1 credit

- Practice your own research presentations
- Master your scientific oral and writing skills



Exercise in Practical Scientific English I / 1 credit

- Learn about the basics of scientific writing in English
- Both English and Japanese are used



	MON	TUE	WED	THU	FRI	
10:30 - 12:00		Business Japanese II A Lectr. Kadonaga 1			Advanced Japanese A (Integrated Course) Lectr. Nanba 1	
13:00 - 14:30				Intermediate Japanese II A (Integrated Course) Lectr. Akuzawa 2	Intermediate Japanese I A (Integrated Course) Lectr. Shimohashi 2	
14:45 - 16:15		Safety and Health Engineering Prof.Hashimoto · Assoc.Prof.Matsui 6	Elementary Japanese Lectr. Akagiri 1	Elementary Japanese Lectr. Akagiri 1	Exercise in Practical Scientific English I Lectr. Nishikawa 3	Project Management in Engineering Engineering Education Research Center -Lecturers- Assoc. Prof. Lintuluoto 5
16:30 - 18:00	Professional Scientific Presentation Exercises Assoc. Prof. Lintuluoto 1	Advanced Engineering and Economy Assoc. Prof. Lintuluoto 1	Upper Elementary Japanese Lectr. Akagiri 1	Upper Elementary Japanese Lectr. Akagiri 1	Exercise in Practical Scientific English I Lectr. Nishikawa 3	Introduction to Advanced Material Science and Technology ER Center Related lecturers 4

Lecture room **1** B-cluster 2nd fl. Seminar room **2** Katsura A1-131 **3** Katsura A2-304
4 Katsura A2-306 **5** Katsura A1-001 **6** Katsura Hall

Japanese Language Classes Fundamental Courses in English
Fundamental Courses in Japanese



Email: 090aglobal@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

For details, see Engineering Education Research Center Web Page <http://www.glc.t.kyoto-u.ac.jp>



京都大学工学研究科に学ぶ 大学院生へ

グローバルに活躍できる人材教育を第一に、
工学基盤教育研究センターがあなたのスキルアップをサポートします

工学基盤教育研究センター 2019年講義項目は以下の通りです
詳細はシラバスを確認して下さい

前期

修士・博士後期課程 対象

安全衛生工学

4回コース：0.5単位
11回コース：1.5単位
火曜日
14:45～16:15

工学と経済（上級）

2単位 火曜日
16:30～18:00

実践的科学英語演習Ⅰ

1単位 木曜日
14:45～16:15 または 16:30～18:00

先端マテリアルサイエンス通論

4回コース：0.5単位
8回コース：1.0単位
12回コース：1.5単位
金曜日
16:30～18:00

エンジニアリングプロジェクト マネジメント

2単位 金曜日
14:45～16:15

博士後期課程 対象

科学技術者のための プレゼンテーション演習

1単位 月曜日
16:30～18:00

集中

修士・博士後期課程 対象

工学研究科国際インターンシップ1

工学研究科国際インターンシップ2

博士後期課程 対象

現代科学技術の巨人セミナー 「知のひらめき」

集中（5月～7月）
6hコース：0.5単位
12hコース：1単位
土曜日
13:00～14:30・14:45～16:15

後期

修士・博士後期課程 対象

実践的科学英語演習Ⅱ

1単位 月曜日
16:30～18:00

現代科学技術特論

4回コース：0.5単位
8回コース：1単位
木曜日
16:30～18:00

エンジニアリングプロジェクト マネジメント演習

2単位 金曜日
14:45～16:15・16:30～18:00



問い合わせ先：工学基盤教育研究センター
事務所：桂キャンパス B クラスター事務管理棟 2F
Tel: 075-383-2048
Email: 090aglobal@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
<http://www.glc.t.kyoto-u.ac.jp/ja>



LEARN JAPANESE LANGUAGE

Japanese Language Education
at Center for Engineering
Education Research Center

GREAT OPPORTUNITIES FOR COMMUNICATION SKILLS IN JAPANESE!

The Engineering Education Research Center offers a series of Japanese Language Courses to international students and researchers. In addition to **Elementary** and **Upper Elementary level courses**, the Engineering Education Research Center offers four other Japanese Language courses described on the right.

The Engineering Education Research Center also provides various fundamental courses in English shown in the green boxes in the schedule for the spring semester 2019-2020.

Advanced Japanese A (Integrated Course)

2 credits, 10:30-12:00, Fri.

- Improve your level of Japanese through increasing and broadening your vocabulary.
- Challenge reading Japanese newspaper articles and discuss about current affairs in Japan.
- Practice giving presentations and taking part in discussions in Japanese.
- Practice translating into Japanese.
- The lectures will be offered at uji campus by live-streaming.

Intermediate Japanese I A (Integrated Course)

2 credits, 13:00-14:30, Fri.

- We use the text 『大学・大学院 留学生の日本語 ①読解編』
- We will learn DEARU style, Expression of a definition and a classification. And we will read texts written in a logical style.
- There is an instructor in Katsura, and there are two teaching assistants (TA) in each classroom in Uji and Katsura.
- If you have a problem, you can talk with instructor or TA.
- Prior to reading texts, there is time to talk with TA about a theme.

Intermediate Japanese II A (Integrated Course)

2 credits, 13:00-14:30, Thu.

- Mastering various Japanese structures of upper- intermediate level (mainly N2 level).
- Reading, listening, conversation, essay writing and discussion practices applying the structures learnt.
- Joint communication tasks conducted through the Distance Learning System, tying different campuses together.
- Multi-cultural discussions together with two teaching assistants.

Business Japanese II A (Integrated Course)

Non credits, 13:00-14:30, Tue.

- Acquire practical Japanese skills for job hunting and working in Japan.
- Master basic skills in business writings, such as E-mails, entry sheets, etc.

	MON	TUE	WED	THU	FRI	
10:30 - 12:00		Business Japanese II A Lectr. Kadonaga 1			Advanced Japanese A (Integrated Course) Lectr. Nanba 1	
13:00 - 14:30				Intermediate Japanese II A (Integrated Course) Lectr. Akuzawa 2	Intermediate Japanese I A (Integrated Course) Lectr. Shimohashi 2	
14:45 - 16:15		Safety and Health Engineering Prof. Hashimoto · Assoc. Prof. Matsui 6	Elementary Japanese Lectr. Akagiri 1	Elementary Japanese Lectr. Akagiri 1	Exercise in Practical Scientific English I Lectr. Nishikawa 3	Project Management in Engineering Engineering Education Research Center -lecturers · Assoc. Prof. Lintuluoto 5
16:30 - 18:00	Professional Scientific Presentation Exercises Assoc. Prof. Lintuluoto 1	Advanced Engineering and Economy Assoc. Prof. Lintuluoto 1	Upper Elementary Japanese Lectr. Akagiri 1	Upper Elementary Japanese Lectr. Akagiri 1	Exercise in Practical Scientific English I Lectr. Nishikawa 3	Introduction to Advanced Material Science and Technology Engineering Education Research Center -lecturers · Related lecturers 4

Japanese Language Classes Schedule for the Spring Semester 2018-2019

Lecture Room 1 : B-cluster 2nd fl. Seminar room 2 : Katsura A1-131 3 : Katsura A2-304 4 : Katsura A2-306 5 : Katsura A1-001 6 : Katsura Hall

Japanese Language Classes

Fundamental Courses in English

Fundamental Courses in Japanese

For details: Web Page: <http://www.glc.t.kyoto-u.ac.jp/ja>
Kyoto University Graduate School of Engineering, Engineering Education Research Center

Email: 090aglobal@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



日本語を学ぶ 日本語で学ぶ

Japanese Language Education
at Center for Engineering
Education Research Center

工学基盤教育研究センターはあなたの 日本語コミュニケーションの スキルアップをサポートします

工学基盤教育研究センターは、日本語のスキルを学びたい外国人学生や研究者を応援しています。2019年度前期も、引き続き、吉田キャンパスおよび桂キャンパスにおいて、日本語講座を開講します。**初級・初中級クラス**に加え、工学基盤教育研究センターでは、右に示す4つのクラスを提供しています。

なお、工学基盤教育研究センターでは、英語による工学研究科共通型授業科目を開講し、履修を推奨しています。詳しくは、2019年度前期カリキュラム中の緑のボックス、および工学基盤教育研究センターホームページをご覧ください。

日本語上級 A (総合)

2 単位 / 金曜日 / 10:30-12:00

- ・語彙を増やして、日本語のレベルアップをしよう
- ・日本語でのプレゼン、ディスカッションにトライしよう
- ・新聞を通して日本の時事に触れよう
- ・日本語翻訳にも挑戦してみよう
- ・桂で行う講義を遠隔で宇治にも配信します。
(TAがお手伝いします。)

日本語中級 I A (総合)

2 単位 / 金曜日 / 13:00-14:30

- ・『大学・大学院 留学生の日本語 ①読解編』を使って学びます
- ・である体のレポートや論文など、論理的な文章を読めるようにします
- ・桂の教室には講師が、宇治・桂の各教室にはTAが2名ずついます
- ・問題があれば、いつでも講師やTAに相談できます
- ・各課題のテーマについてTAと日本語で話す時間を設けます

日本語中級 II A (総合)

2 単位 / 木曜日 / 13:00-14:30

- ・中級レベル（主としてN2レベル）の表現・文型の習得
- ・学んだ文型を応用した読解、聴解、会話、作文の練習及びディスカッション
- ・遠隔システムを用いた、キャンパスを超えた合同コミュニケーション・タスク
- ・2名のTAを交えた日本 ↔ 各国の社会・文化についてのディスカッション

ビジネス日本語講座 II A

単位なし / 火曜日 / 13:00-14:30

- ・日本社会で通用する、実践的なビジネス日本語力を身につけよう
- ・就職活動、就業に役立つビジネス文書の作成方法を学ぼう

	MON	TUE	WED	THU	FRI	
10:30 - 12:00		ビジネス日本語講座 II A 門永 講師 1			日本語上級 A (総合) 南場 講師 1	
13:00 - 14:30				日本語中級 II A (総合) 阿久澤 講師 2	日本語中級 I A (総合) 下橋 講師 2	
14:45 - 16:15		安全衛生工学 (環境安全) 橋本教授・松井准教授 6	日本語初級 赤桐 講師 1	日本語初級 赤桐 講師 1	実践的 科学英語 演習 I 西川 講師 3	エンジニアリング プロジェクト マネジメント 工学基盤教育研究センター講師・ リントゥルオト 准教授 5
16:30 - 18:00	科学技術者の のための プレゼンテーション 演習 リントゥルオト 准教授 1	工学と経済 (上級) リントゥルオト 准教授 1	日本語初中級 赤桐 講師 1	日本語初中級 赤桐 講師 1	実践的 科学英語 演習 I 西川 講師 3	先端マテリアル サイエンス通論 工学基盤教育研究センター講師・ 関係教員 4

講義室 1: 桂B事務管理棟2Fゼミ室 2: 桂A1棟-131 3: 桂A2棟-304 4: 桂A2棟-306 5: 桂A1棟-001 6: 桂ホール

日本語講座 (赤) 英語による工学研究科共通型授業科目 (緑) 日本語による工学研究科共通型授業科目 (青)

詳細は → Web Page: <http://www.glc.t.kyoto-u.ac.jp/ja>
京都大学工学部・大学院工学研究科附属工学基盤教育研究センター

Email: 090aglobal@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

